

052

05
T 60
T 648
4-8

統計数理研究輯報

第 4 號

選舉予想調査

I

昭和 26 年 3 月

5404
統計数理研究所

東京都世田谷區三軒茶壺町10

26. 9. 5

こゝに“統計数理研究輯報”の第3號を發行する。

‘統計数理研究輯報’は實際問題に就いてその準備，計畫，
實際，處理等に關する研究の報告に當てる。

之は其の性質上，統計数理の研究者のみならず調査，分析等
廣く斯かる種類の問題に携る實際家の參考となる様にと念願し
て刊行するものである。

發 行 所 東京都世田谷區三軒茶屋町十

統 計 數 理 研 究 所

編集責任者 水 野 坦

印 刷 所 東京都文京區高田豐川町十三

莊 文 社 印 刷 所

古 田 義 雄

統計数理研究輯報

四号の別表

第 1. 5 表 本頁参照

研究実験調査（第 1 回） 統計数理研究所 1949年2月8日・9日

① 投票日は何日か知っていますか？

知っている

知らない

其他

拒否

② 立候補者は何人ですか？

人

判らない

拒否

③ 立候補者の名前を知っていたら言って下さい。

矢田

佐藤

難波

石橋

千代田

④ 立候補者の所属政党を知っていたら言って下さい。

⑤ 職業・経歴を知っていたら言って下さい。

⑥ 立候補者の誰かも個人的に知っていますか？

知っている

知らない

其他

拒否

⑦ どんな関係ですか？

名前

関係

⑧ 誰かから推薦をうけた候補者がいますか？

ある

ない

其他

拒否

⑨ 誰からですか？（⑧の「ある」者のみに）

名前

推薦者

⑩ 何で候補者を知りましたか？

公報

話

ビラ

新聞

（推薦をうけた人に対しては、「その外に何で……」とき）

推薦状

演説会

街頭宣伝

其他

⑪ 区長が決れば今迄と区政が変わると思いませんか？

変る

変らない

判らない

其他

拒否

⑫ 当選してもらいたい人は誰ですか？

矢田

佐藤

難波

石橋

千代田

（○をつける）

理由

理由

理由

理由

理由

⑬ それは何ですか？

矢田

佐藤

難波

石橋

千代田

⑭ 当選してもらいたくない人は誰ですか？

理由

理由

理由

理由

理由

⑮ それは何故ですか？

矢田

佐藤

難波

石橋

千代田

⑯ 誰に投票したらいいか判断ができますか？

できる

できない

判らない

其他

拒否

⑰ 誰に投票するつもりですか？

矢田

佐藤

難波

石橋

千代田

⑱ それは何故ですか？

理由

理由

理由

理由

理由

⑲ 投票には行くつもりですか？

必ず行く

大概行く

まあゆく

おからない

まあゆかない

大抵ゆかない

必ずゆかない

⑳ 先日の衆議院の選挙は投票しましたか？

投票した

しなかった

拒否

㉑ A 誰ですか？（した者のみ）

名前

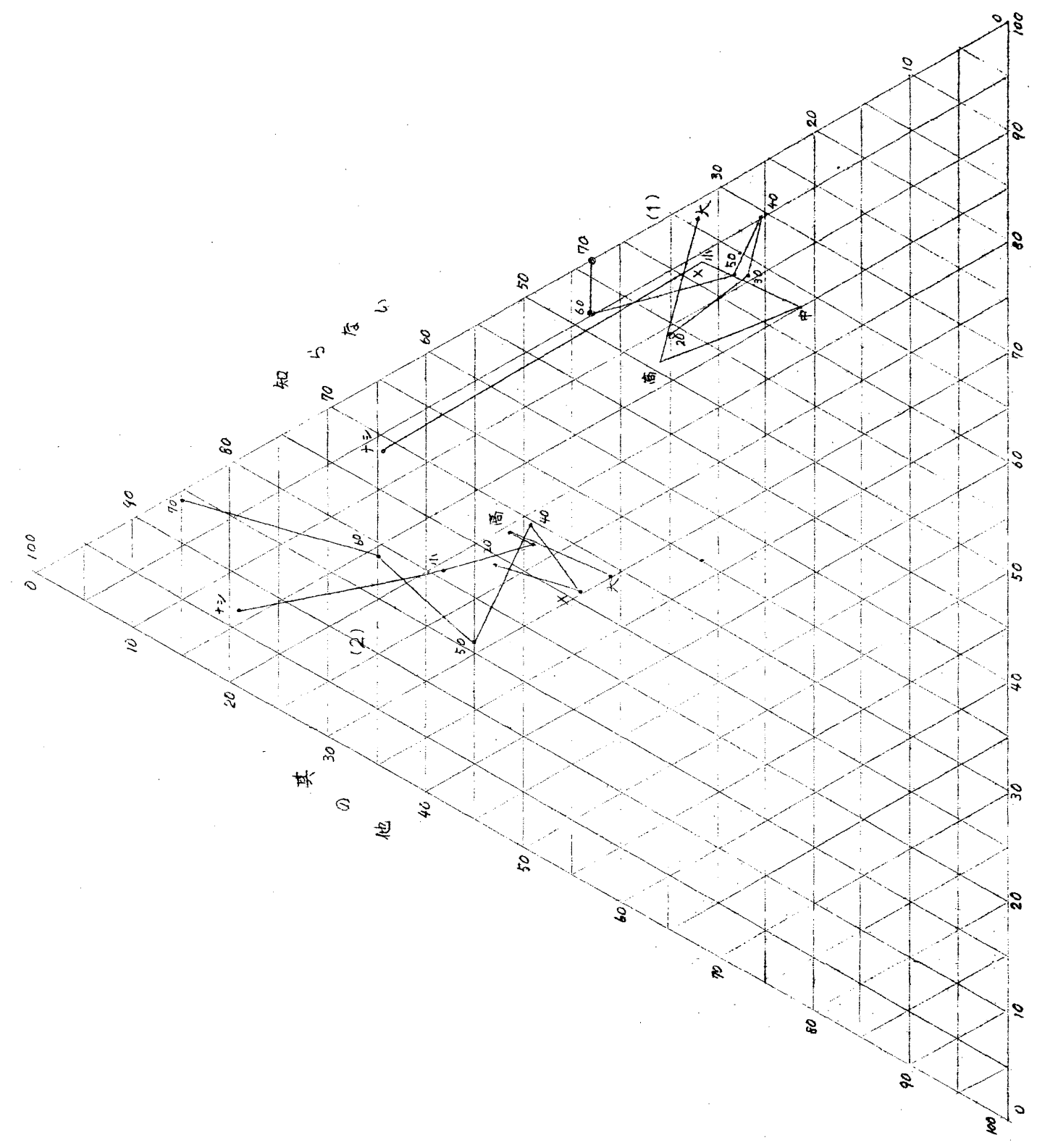
B 理由

㉒ B 何故ですか（しなかった者のみ）

㉓ 好きな政党は何ですか？

政党名

第 2.17 図
26頁参照
年令別 (%)



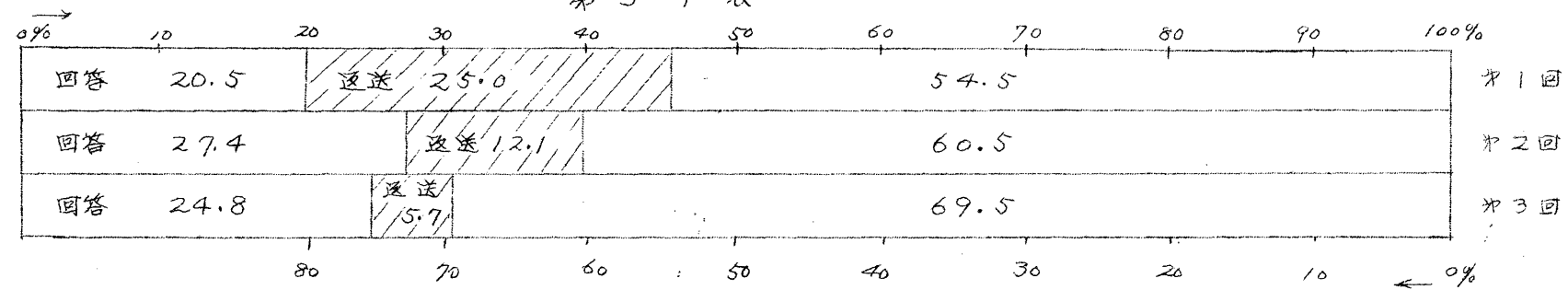
正 答

- (1) 投票日は何日か
- (2) 何人立候補してますか

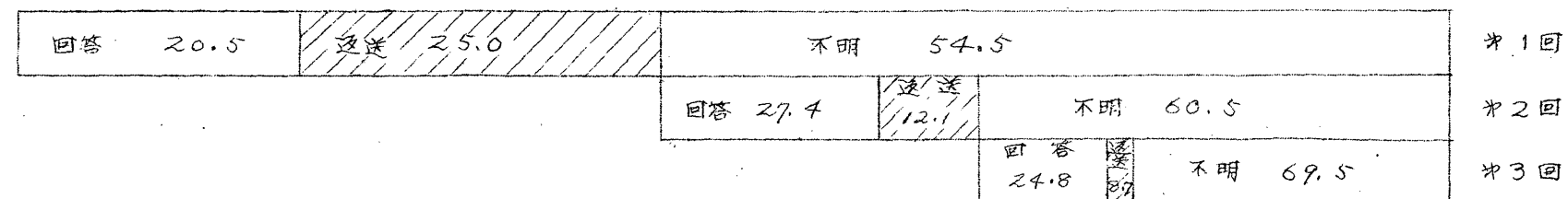
第 3.3 表 58頁参照

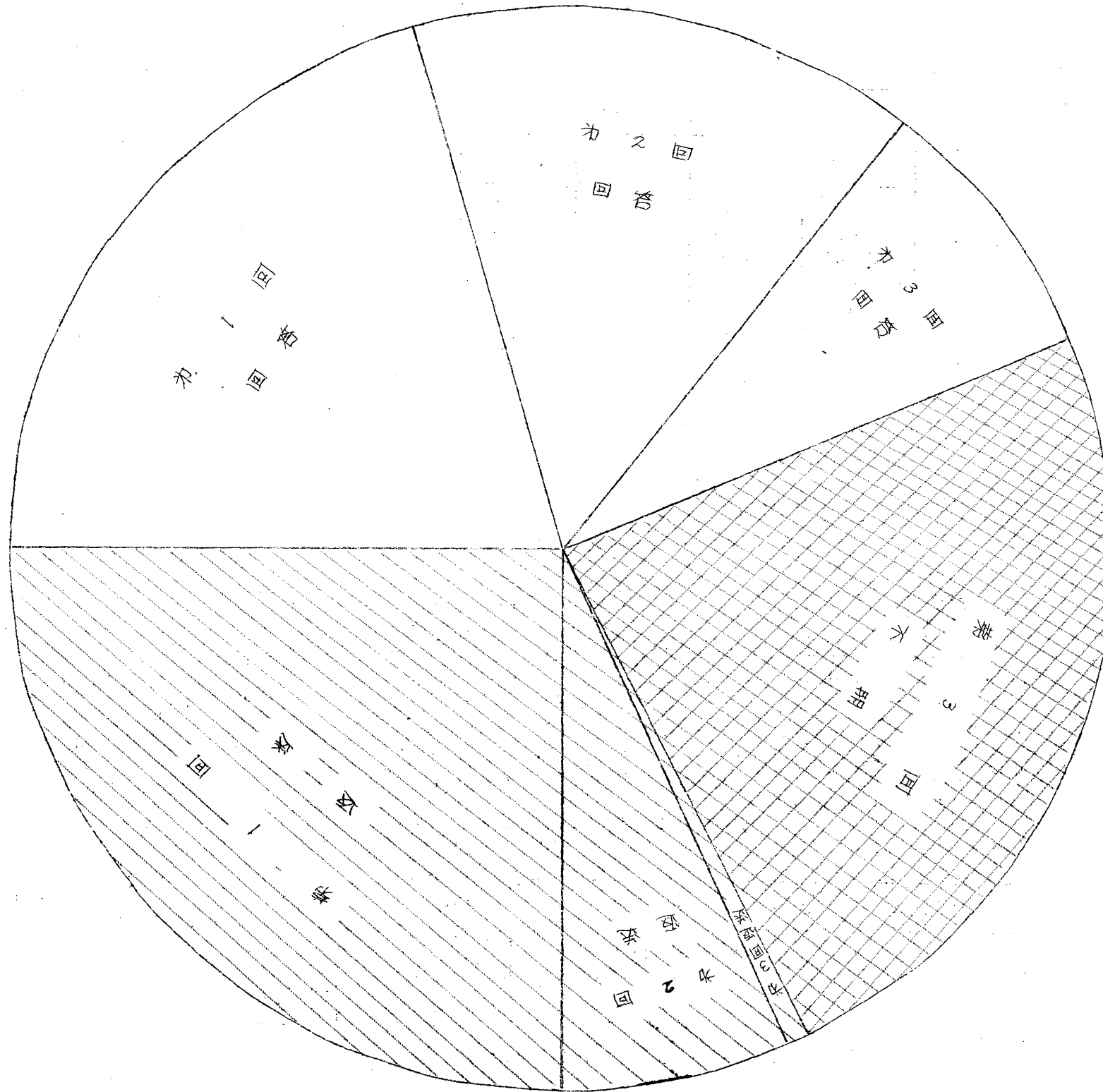
	第1回	第2回	第3回
回 答	20.5	27.4	24.8
返 送	25.0	12.1	5.7
不 明	24.5	60.5	69.5
計	100	100	100.0

第 3.4 表

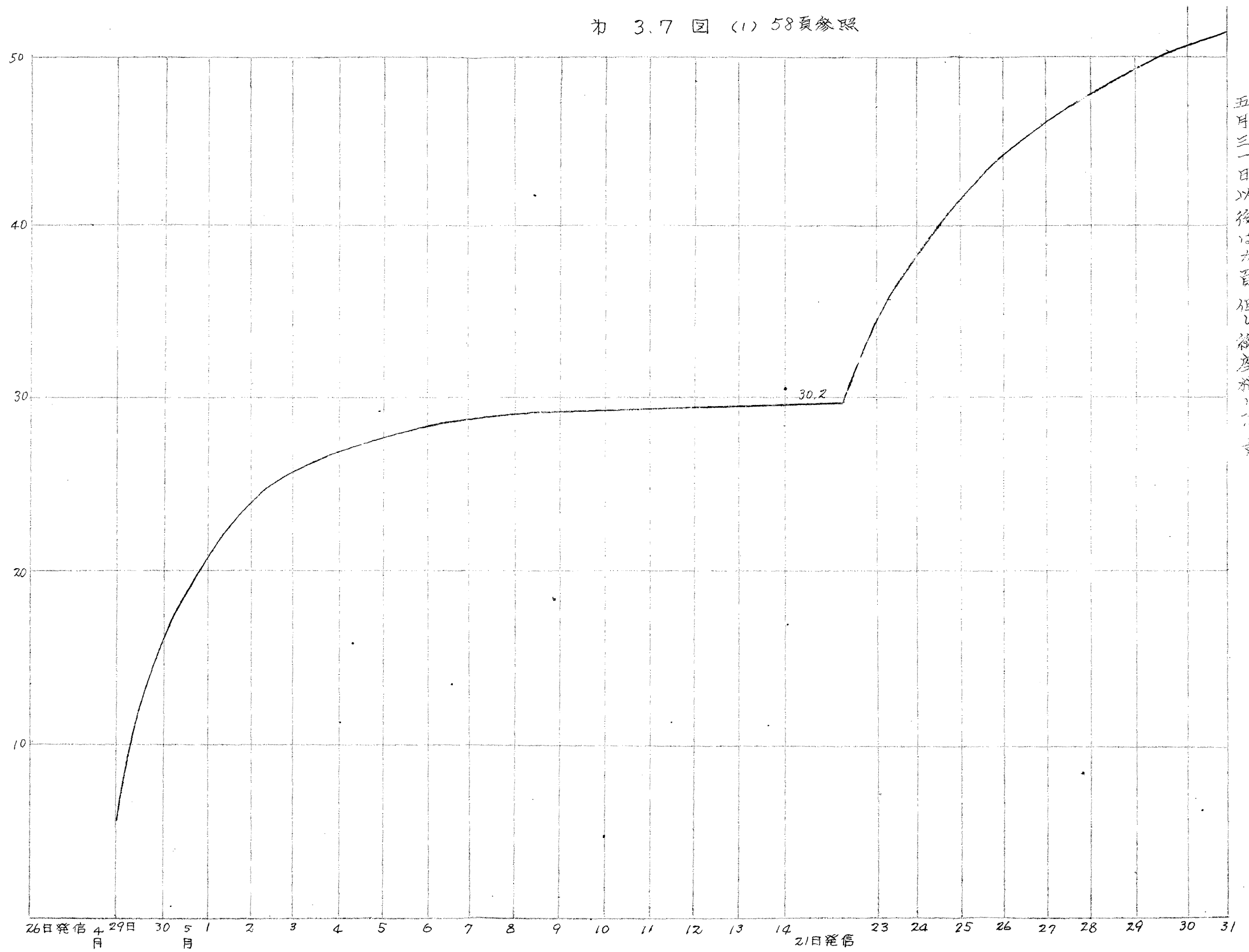


第 3.5 表



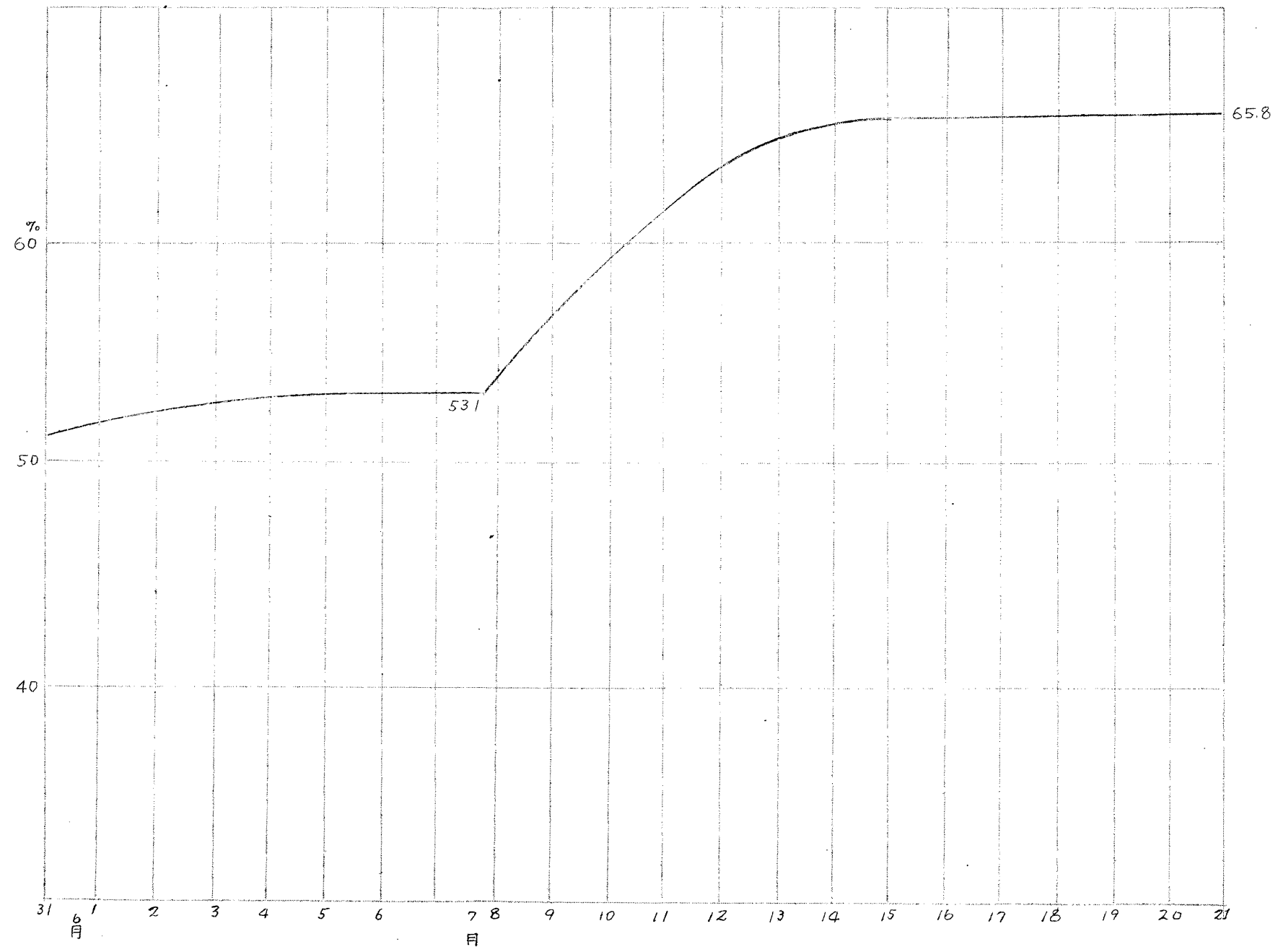


为 3.7 图 (1) 58 页参照

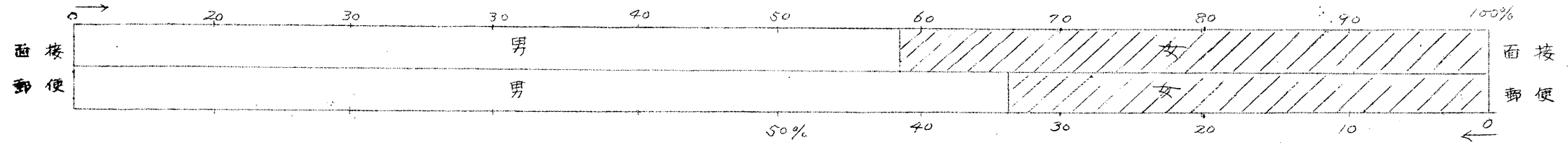


五月三十一日以後は次頁、但し縦座標に注意

和 3.7 図 (2)



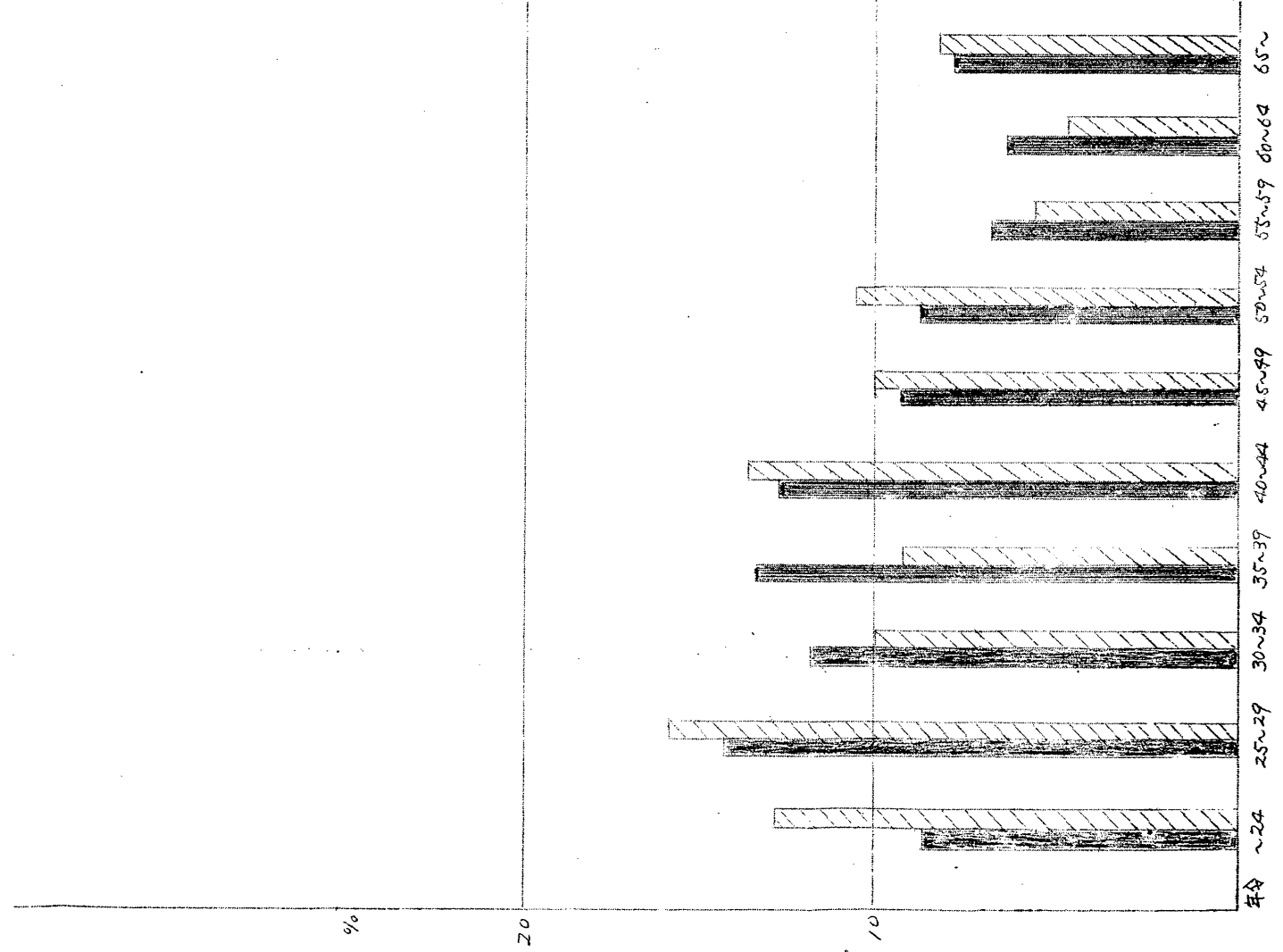
第 3.12 図 (性別)



第 3.13 図 61頁参照

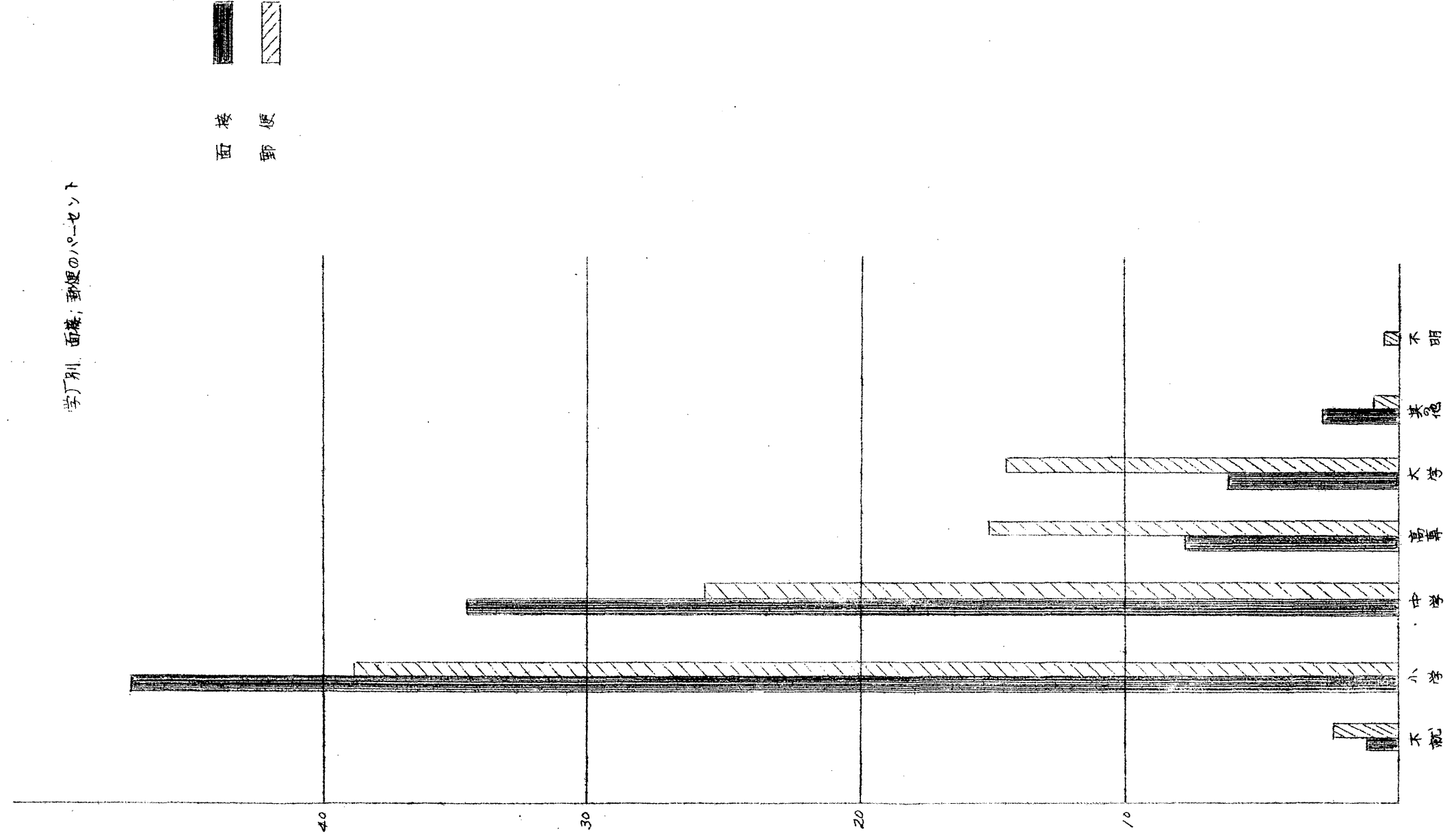
年令別面接郵便のパーセント

面接
郵便



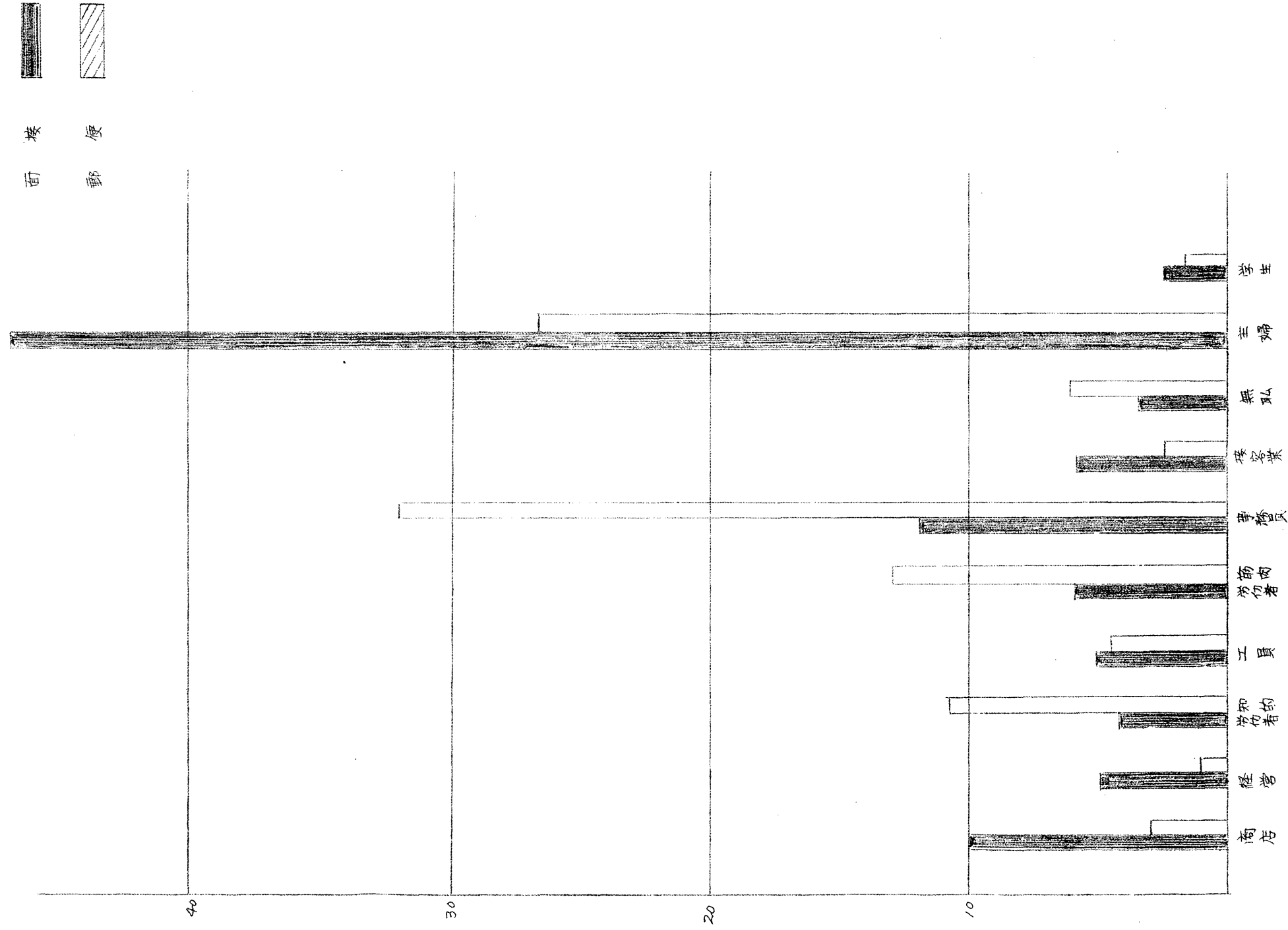
第3.14 図 61頁参照

学丁別、面接、郵便のパーセント



第 3.15 図 67頁参照

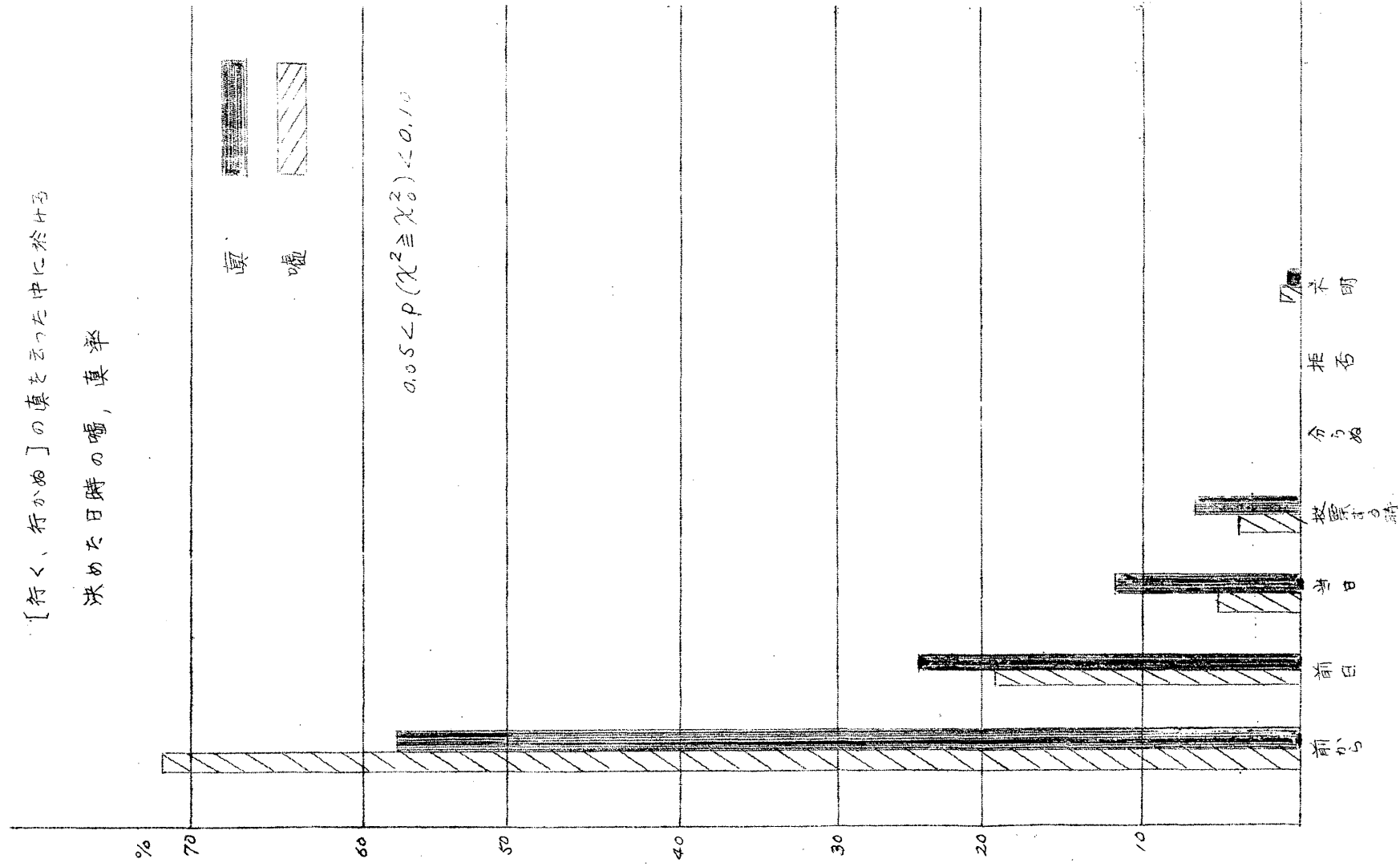
職業別 面棲郵便のパーセント



第4.14 図 75頁参照

「行く、行かぬ」の真を云つた中に於ける

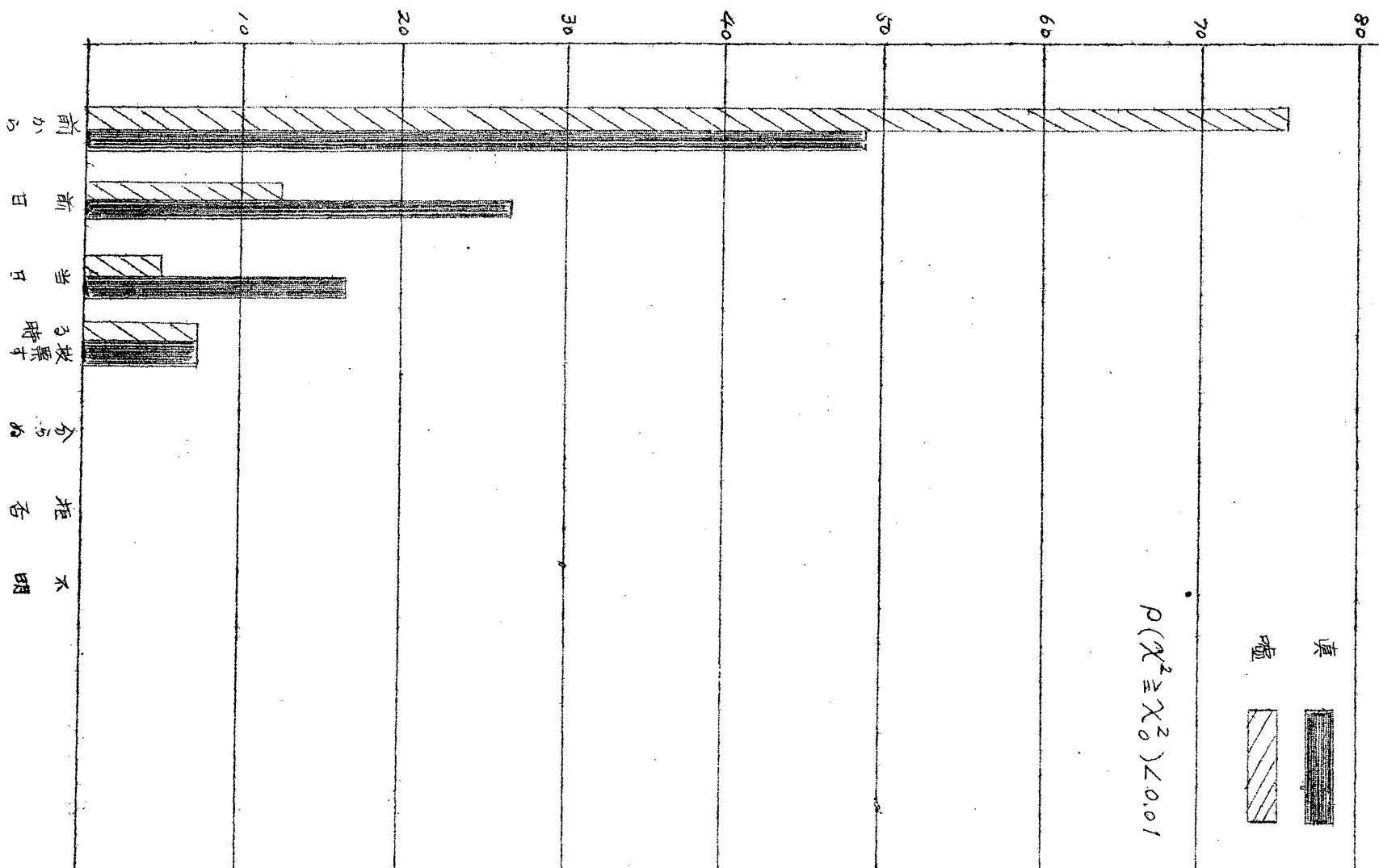
決めた日時の嘘、真率



第4.15 図 75頁参照

〔投票した、しない〕の嘘を云った。中に於ける

決めた日時、嘘、真率

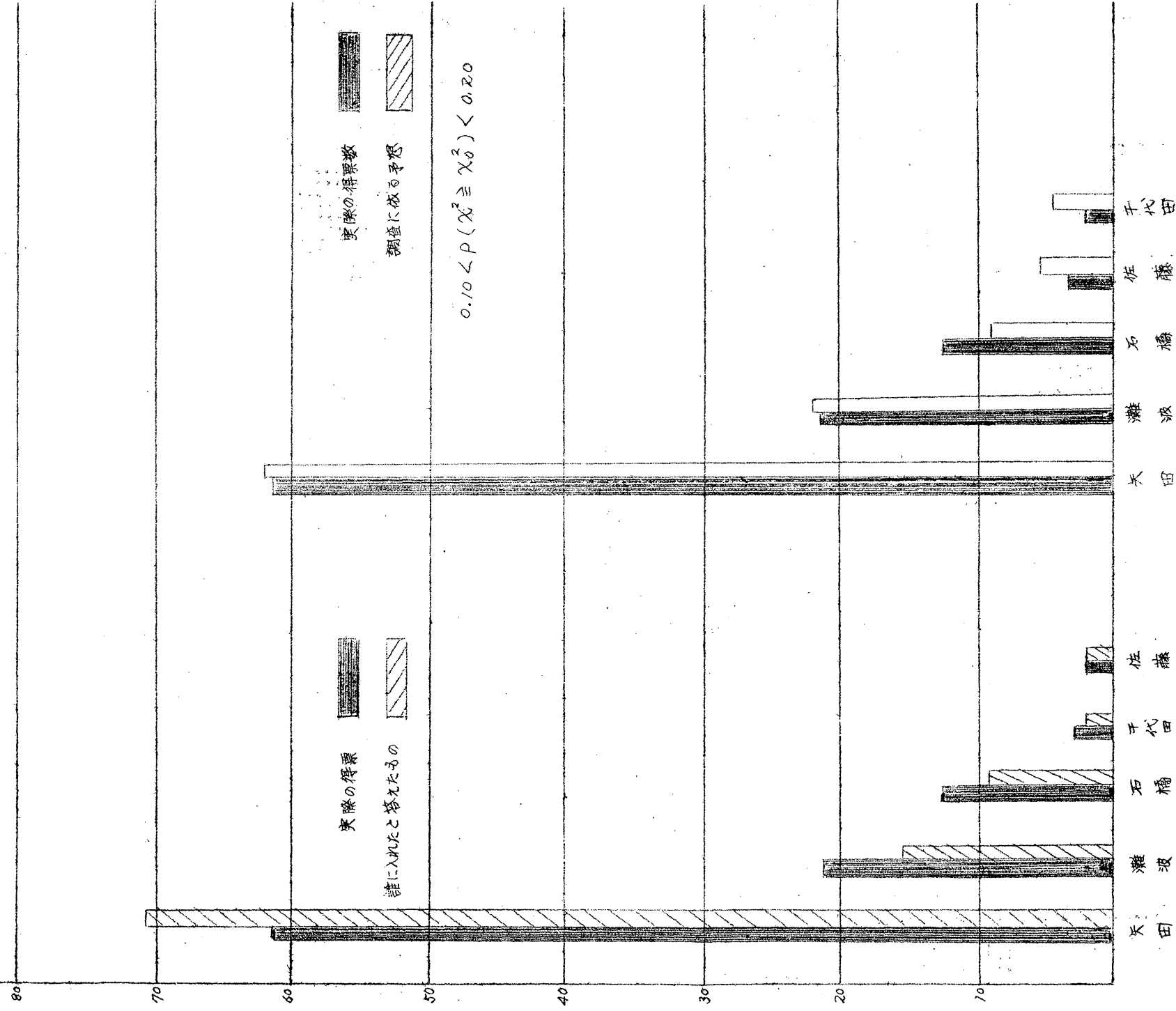


縦の和が"1

	天 田	難 波	石 橋	佐 藤	千 代 田	拒 否	其 の 他	
詰 に 入 れ る か	天 田	難 波	石 橋	佐 藤	千 代 田	拒 否	其 の 他	138
								36
								15
								7
								7
								12
								21
								259
	324	76	43	8	10	30	4	495

横の和が 1

[illegible]



第 付. 3 表 94頁参照

	選挙名 Elections	ほん と correct		う false そ		そ の 他 others	計 total	うそつき合計 false
		投票と答え 投票 said voted and voted	棄権と答え 棄権 said did not vote and did not vote	棄権と答え 投票 said did not vote but vote	投票と答え 棄権 said voted but did not vote			
P. O. Q.	1948 Presidential elec.	60%	26 %	1 %	13 %	0 %	100 %	14 ± 2
	1948 Primary elec.	24	45	3	21	7	100	24 ± 2
	1947 City Charter elec.	17	43	2	28	10	100	30 ± 3
	1947 Mayoralty elec.	35	35	1	28	1	100	29 ± 3
	1946 Congressional elec.	27	42	2	19	10	100	21 ± 3
	1944 Presidential elec.	36	37	2	23	2	100	25 ± 2
This report	区長選挙 Election of headman of the ward	52	31	4	10	3	100	14 ± 3
	衆院選挙 Representative election	57	28	1	13	1	100	14 ± 3

Sample size { P. O. Q 920
this report 760

選挙豫想調査

I 港区長選挙の場合

水野 坦 木村 等 西平 重彦

目 次

まえがき	
第 1 章	調査の概要
第 2 章	結果の集計と分析
§ 2.1	あらましとサンプルの構成
§ 2.2	面接調査の集計
§ 2.3	留置調査の集計と面接調査との比較
§ 2.4	結果の分析
第 3 章	郵便調査について
§ 3.1	調査不能の理由
§ 3.2	返信のようす
§ 3.3	返信者の分析
§ 3.4	返信者と投票
第 4 章	サンプルのうそつき率について
§ 4.1	社会状態によるうそのつきぐあい
§ 4.2	家によくいるか、るすをしがちかによる のつきぐあい。
§ 4.3	政治的関心によるうそのつきぐあい。
§ 4.4	留置調査のうそ
第 5 章	調査の信頼性について

- § 5.1 投票率について要因による差
- § 5.2 投票率についての開票結果との比較
- § 5.3 得票数の予測

あ と が き

付 録 他 の 調 査 の う ぞ と の 比 較

ま え が き

此の報告は、昭和 24 年 2 月 12 日に行はれた、港區長選挙に際して、我々の科学研究費を土台として行つた研究調査に関するものである。

これは直接的には、しばしば行はれている、選挙の輿論調査対して、ある意味で模範的なものを與へ、以て殆ど多くの場合に考えられている、「選挙結果の予想を行ふには、如何にすべきか」といふ問題の解決を狙ひ、間接的には、此の様な予想法といふものゝ一般的な研究を行はんとしたものであつた。

然し、此の企画の際に意図した事は、以下の報告で明かになる様に、必ずしも充されなかつた。之には、此の時の港區長選挙なるものゝ條件を構成していたものが、あまりに、單純であつて、一般の場合の錯綜した條件下に於ける問題に対してはあまり有力な手掛りを與へるものでなかつた事も挙げられよう。

又当時我々の研究結果の発表機関が不充分であつたため我々は此の調査並にその分析をして、範疇らしめんとして當つたのであるが、非常に窮屈な經費上の條件や、又分析のための労力の不足と共に此の様な形のもの以上にはさせなかつたため、水野所員の米田出張とも終んで報告書の完成をおくれた。

以上の様な理由で、相當時期も距つており取扱ひ方にも、種々不満はあるが、にもかゝはらず、此の様な、選挙の調査に対して統計数理的に、つゝこんな解析を行つた最初のものとして、之をこの形で発表する。尚今年四月の地方選挙に際して、我々は又想を新たに、研究を行つたが、その結果は、年内には公表できる予定であるから、それとの比較は充分な意識を附加するものと信じてゐる。

本研究を行ふのには、多くの機関並に個人の協力にあづかつた。

先づ統計数理研究所では、單に我々の研究室のみでなく、当時の研究第三部の坂元・林研究室の協力、研究第一部、研究第二部の協力と研究所総動員の形で調査を行つた。殊に、林研究室では、林所員・石田部員・高倉室員等、企画から、実施迄絶大なる援助協力をわづらはした。

更に、研究所の附属統計技術員養成所でも調査員として参加し、民間情報教育局輿論社会調査部の好意は、輿論科学協会のもそれと共に、之等がなければ、此の様な研究ができなかつた程度の支持をして下さつた。

ここに深甚なる謝意を表する。

調査を行つた後の分析には殆ど我々だけ——所員水野坦・部員橋爪淺治・木村等、西平重喜、室員小島嘉江・村岡充子・田熊雅子・鈴木三千代・山下久仁子——で当つた。

勿論こゝに記された結果についての責任は我々だけにあるものであり、略極の責任は、この研究担当者としての水野所員に歸すべきものである。

我々は此の研究の一部を日本教育学会、日本統計学会、日本心理学会等で発表している。

この様に本報告に關しては、二三關係する報告がすでに現われているので、重複するものは之を省いた。

即、サンプリング計画に關するものは、統計数理研究所報、第二号、に西平部員が準備した「港區長選挙に關する世論調査のサンプリング計画」を参照されたい。

又解析の手法として採用した *Amount of Contribute* に就いて詳しくは、講究録第5巻、第10号、「寄寄量について」を参照されたい。

第 I 章 調 査 概 要

前書にも触れた様に、此の研究は、「如何にすれば、選挙結果が予想できるか」という予想法の確立を中心問題とし、更に所謂浮動票の問題、調査員の質による調査のくろいの問題、質問による妥当性の問題、*non-response* の扱い方の問題、言葉による虚偽の問題、等の解明を狙つて行つたものである。

質問の作成に関する段階では、主として研究所内での研究の結果、次の様なものに決めた。

此の際、調査実施の観点から *call backs* の負担を軽くする爲、*Sample* の第一日訪問時に面接不能なもの、半分の大きさの *random sample* をとり、之には留置の質問票を使用することにした。この際、質問は殆ど、変更ないが、必然的変更が、小部分行はれた。我々はこれに依り、調査方法の比較をも考へたのである。

質問は選挙結果予想という中心問題に対して、選挙自体に関する知識、候補者との特殊関係、*information* の *media*、期待、関心、判断、投票意志等、之等に大きな関係あると考へられる様な、*factor* を取り上げる方針で決定した。此のため、通常の調査に比して、*information* は充分豊富になつたが、面接の技術上余計な困難が導入された事を否めない。

更に我々は、予想法の確立のために、之等の選挙前に調査可能な *factor* を利用して選挙後の投票結果を得る爲、選挙後始めて判明する、資料をも集めることにして、投票後、の調査を企画、これを行つた。此の際の観点も同様中心問題に関するものである。

Sampling は有権者名簿を土台として、区役所で、行つた

、此の結果を調査員に割当てゐるのに動員した、研究所関係、養成所生徒、学生のアルバイト調査員、専門経験者の調査結果の比較が、できる様にと *design* をした。その結果は、出ているが考慮の上これは本報告に含めない事にした。

この様にして本調査の実施には延 171 人を要した。
内 106 人が第一回調査に関するものであり、65 人が選挙後の第二回の調査に関するものである。

更に我々は、選挙後、面接によらず、より客観的な資料から、有権者が投票したか、棄権したかをチェックすることが出来た。これによつて、虚偽の分析は相当つゝこんだ事を行へたのである。

又、虚偽にも関連して *non-response* 追求の爲に *mail* による調査を併用した、これは開票後 1 月迄 3 回に亘つて行つた。これによつて *mail* による信頼性——單に解答だけでなく、到達の信頼性も含める——について、問題をみつけた。

此の様にして実施された結果が結果が次節以下に示す様な報告を築いたのである。

以下に質問票と回答票をサカげる 第 1.1 表は第一回調査の回答用紙第 1.2 表は留置調査用紙、第 1.3 表は第二回調査の質問回答用紙である。第一回調査の質問票は 更に第 1.4 表としてサカげてある。

第 1.1 表

回答用紙 (第 1 回)

統計数理研究所

1949 2.8.9

時刻		回数		位置		調査員		地位		自答、使用、非使用					
男・女		才													
不就		小学	中学	高等	大学	他	往	年	組合						
1	知っている		知らない		其 他		拒 否					1			
2	人		判らない		拒 否							2			
3	矢 田		佐 藤		雄 波		石 橋		千代田			3			
4	民 自		無		共 産		無		無			4			
5												5			
6	知っている		知らない		其 他		拒 否					6			
7	名前		関係									7			
8	あ る		な い		其 他		拒 否					8			
9	名前		持ち									9			
10	公 報		話		ヒ ラ		新聞ラジオ					10			
	推薦状		演説会		街頭宣伝		その他								
11	変 る		変らない		判らない		其 他		拒 否			11			
12	矢 田		佐 藤		雄 波		石 橋		千代田			12			
13	理由記入		理由記入		理由記入		理由記入		理由記入			13			
14												14			
15												15			
16	できる		できない		判らない		其 他		拒 否			16			
17	矢 田		佐 藤		雄 波		石 橋		千代田			17			
18	理由記入											18			
19	必ず行く		大抵行く		まあ行く		判らない		まあ行かない		大抵行かない		必ず行かない		19
20	投票した		しなかった		拒 否							20			
21	A 名前				B 棄権理由							21			
22	政 名											22			

第 1. 2 表

留 置 調 査 用 紙

選区長選挙に関する研究調査 文部省統計数理研究所

質 問 の 部

- ① 投票日は何日か知っておりますか。

日です	知らな	其の他
-----	-----	-----
- ② 立候補者は何人ですか。

人です	知らな	其の他
-----	-----	-----

- ③ 立候補者の名前を知つてゐたら○で囲んで下さい。
- ④ その人の所属政党を御存じならば御記入下さい。
- ⑤ その人の職業経歴を御存じならば御記入下さい。
(御存じなければ記入の必要はありません)
- ③④⑤は左の順に御記入下さい。
- ⑥ 立候補者の誰かを個人的に知つてゐますか。

知つてゐる	知らない	其の他
-------	------	-----

それらばその人の名前は誰ですか

知つてゐる候補者の名

立候補者名	穴田	佐藤	難波	石橋	千代田
所属政党					
字、及、経、					

⑦ もし知つてゐれば貴方とかんを関係ですか
 簡単に右の欄に記入して下さい。

--

⑧ となにか候補者を推薦した人がありますか。

あ	る	な	い	そ	の	地
---	---	---	---	---	---	---

⑨ もしあるとすれば其の候補者の名と推薦した人と貴方との関係を記して下さい。

候 補 名	推 薦 者 と あ な た と の 関 係
-------	-----------------------

⑩ 何で候補者を知りましたか。知つた方法をいくつでも○で囲んで下さい。

公 報	話	ビラ	新聞、ラヂオ	推薦状	演説会	街頭宣伝	其の他
-----	---	----	--------	-----	-----	------	-----

⑪ 今夏の選挙の結果区長が決れば今迄と区政が変わると思いますか。

変	る	変	ら	な	い	判	ら	な	い	そ	の	他
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

⑫ 当選してもらいたい人を一人でも二人でも○で囲んで下さい。なければ名前全部に大きく×印をつけて下さい。

⑬ その理由を簡単に下にかいて下さい。

当 選 し て ら い の 名	矢 田	佐 藤	難 波	石 橋	千 代 田
そ の 理 由					

- ⑭ 当選してもらいたくない人を一人でも二人でも
○ で囲んで下さい
- ⑮ またその理由を簡単にその下に記入して下さい。

当選したくない人	矢 田	佐 藤	難 波	石 橋	千 代 田
その理由					

- ⑯ 貴方は誰に投票してよいか、今判断できますか。
- ⑰ 誰に投票するつもりですか。その人を ○ で囲んで下さい。
- ⑱ そればなせですか。その理由を簡単に記入して下さい。
- ⑲ あなたは投票にゆくつもりですか

必ずゆく	大抵ゆく	まあゆく	めからない
まあ行かない	必ず行かない	大抵行かない	その他

- ⑳ 先日の衆議院選挙は投票しましたか。

し	た	し	な	い
---	---	---	---	---

出 来 る	出 来 ない	判 断 不 明	そ の 他
-------	--------	---------	-------

投票したい人	矢 田	佐 藤	難 波	石 橋	千 代 田
その理由					

④ A もし投票したとすれば誰にしましたか。

④ B もし投票しなかったとすればその理由を御書き下さい。

④ 貴方のすべき政党は何党ですか。 なければ「ない」を○で囲んで下さい。

政党名

なし

質問は以上で終了です。

誠に失礼ではございますが貴方の御職業：お年等につき下の欄に御記入下さい。

男 女	不	職 業	地 位	自営 使用 被使用		
学 厂	小 学	中 学	高 専	大 学	他	<div> <div>労働組合に入っているか</div> <div>否</div> <div>然</div> </div>

第 1. 3 表

回答用紙 (第 2 面)

組	No.	調査 員名	備考
1	1	1 した 2 拒否 3 しない	
2	2	何時その人に入れようと決めましたか	何故
3	1 前から 2 前日 3 当日 4 投票する時 5 わからぬ 6 拒否		
4	3 誰かと相談しましたか 1. した 2. しない 3. わからぬ 4. 拒否		
5	4 誰と 1 配偶者 2. 子、孫 3. 其の他 4 近所の人 5 知人 6 其の他 7 拒否		
6	4' その人の言ふ通りにしましたか 1. した 2. しない 3. 分からない 4. 拒否		
7	4" 何を参考にしましたか		
8	1 新聞公報 2 演説会 3 街頭宣伝 4 ビラ 5 話 6 推せん状 7 分からない 8 拒否		
9	5 何故その人に投票しましたか		
10	1 2 3 拒否		
11	6 誰に投票しましたか 1. 矢田 2 佐藤 3 難波 4 石橋 5 千代田 6. 白果 7 拒否		

第2章 結果の集計と分析

§ 2.1 あらましとサンプルの構成

この章では、調査票からの単純集計と、かんたんな相関表を中心とする分析も行った。

集計は大体において調査票の質問順序によった。質問番号は(1), (2), -----, (22), (31), (32), -----, (41)のように()でくくって示した。但し(1)~(41)は第2回調査の質問番号(1)~(11)——すなはち30を越したものを——をあらはす。

なお本文中の質問の“いいまわし”は完全なものでない。完全なものは、質問票として第1.1 ~ 1.3表にかかっている。

以下の集計はとくにことわらないかぎり、回答者について行なった分析であつて、いろんな理由から回答を得られなかったものについては、別の分析がなされている。

表のうち>, <は信頼度95 % で有意な差のあるもの, Xは有意な差のないことをあらはす。但しこの記号は必要なところにはけつけてある。

質問票の集計に入る前に、サンプルの構成をみる。

第一回調査でとったサンプルは、つぎのようになった。

但し面接できたものでも、回答記入が完全でないものがあり、集計分析にあたつて、大勢にひかない程度くるつていることがある。

まず面接できたもの669について集計を行い、留置は別に集計する。

第 2.1 表

	実 数	%
面 接	670	56.6
留 置	156	13.2
調 査 不 能	357	30.2
総サンプル	1183	100.0

年 令 別 と 性 別 の 構 成

第 2.2 表

オ	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49
男	32	45	25	27	36	29
女	26	51	54	63	50	33
計	58	96	79	90	86	62
%	8.7	14.3	11.8	13.4	12.9	9.3

50~54	55~59	60~64	65~69	70以上	計	%
25	21	20	12	12	284	42.5
33	23	23	13	16	385	57.5
58	44	43	25	28	669	100.0
8.7	6.7	6.4	3.7	4.2	100.0	

このとなり合っている年層の間にはどこにも有意な差はみとめられない。

また男女の間にも差はない。

サンプルの職業構成

第 2.3 表

	接客業	商店	経営者	知的労働	事務員
実数	38	66	33	28	79
%	5.7	9.9	4.9	4.2	11.8

工員	筋肉労働	無職	主婦	学生	計
33	38	23	315	16	669
4.9	5.7	3.4	47.1	2.4	100.0

こゝで接客業は主として飲食店主、商店は商店主、経営者は会社組織の幹部、知的労働とは医師、教員、僧侶など、筋肉労働は屋外労働者をあらわす。

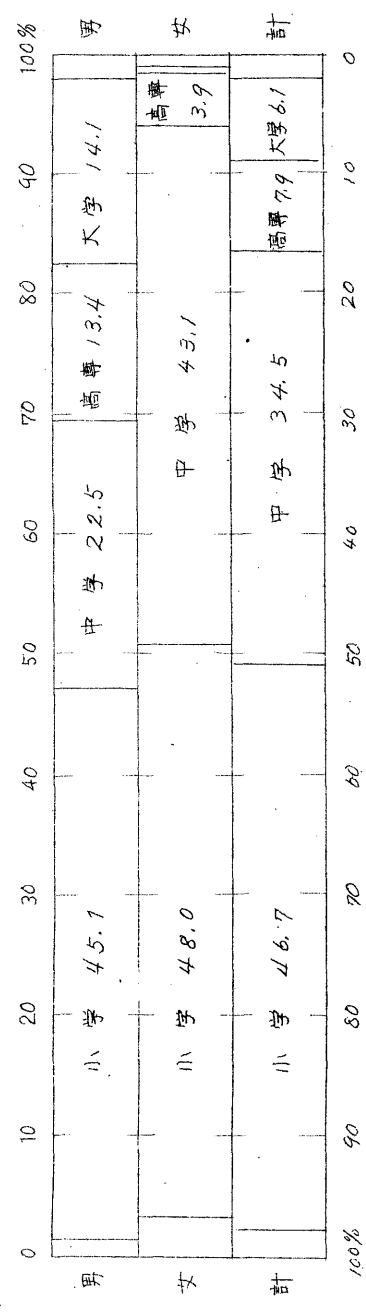
学 厂 別 の 構 成

第 2.4 表

		就学せず	小学	中学	高専	大学	その他	計
実数	男	4	128	64	38	40	10	284
	女	10	185	166	15	1	8	385
	計	14	313	230	53	41	18	669
%	男	1.4	45.1	22.5	13.4	14.1	3.5	100.0
	女	2.6	48.0	43.1	3.9	0.3	2.1	100.0
	計	2.1	46.7	34.5	7.9	6.1	2.7	100.0

この % を図にすれば、つきのようなになる。空白の部分は上の表と同じ順であるから、それをみればよい。

第 2.4 図



男女の学厂を比較するため、中学以上をみれば、男は50%、女は47.3%であるが、有意な差はない(信頼度95%)。また高専、大学についてみれば、男は27.5%、女は4.2%で、これは有意な差がある。

小学校より男、女で有意な差はない。

すなわち男女の学厂の差は高専大学についてだけいえる。

学 歴 と 年 令 の 構 成

第 2.5 表

	就学せず	小 学	中 学	高 専	大 学	その他	計
20~24		12	23	14	5	4	58
25~29		18	52	14	11	3	96
30~34		33	39	3	4		79
35~39	1	36	39	8	5	1	90
40~44	1	42	33	3	6	1	86
45~49		41	12	4	3	2	62
50~54	2	37	13	2	2	2	58
55~59		30	7	5	1	1	44
60~64	2	30	7		2	2	43
65~69	5	14	4		2		25
70 以上	3	20	3			2	28
計	14	313	230	53	41	18	669

§ 2.2 面接調査の集計

この§では面接できたものについて、集計する。

(1) 投票日は何日か知っていますか？ を性別にみれば、つぎの通り但し数字は％，

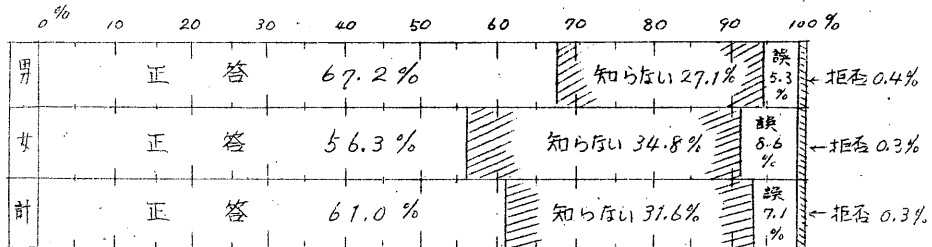
第 2.6 表

(1)	正 答	知らない	まちがい	拒 否	計
男	67.2	27.1	5.3	0.4	100.0
女	56.3	34.8	8.6	0.3	100.0
計	61.0	31.6	7.1	0.3	100.0

計 669 人

男の‘正答’ 67.2％ は，女の‘正答’ 56.3％ より有意に大きく； 男の‘知らない’ 27.1％ は，女の‘知らない’ 34.8％ より有意に小さい。 すなわち，男は女より投票日をよく知っている。

第 2.6 図



(1) 投票日は何日か？ 年令別にみれば、

第 2. 7 表 .

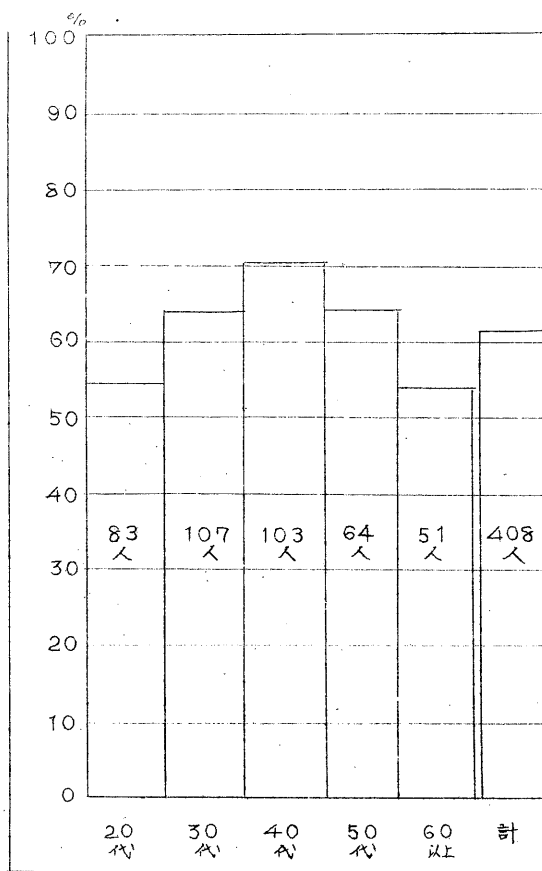
年令 (1)	20~25	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~	計
正 答	33	50	54	53	62	41	35	29	24	11	16	408
知らない	22	37	17	29	21	16	18	11	17	11	12	211
まちがい	3	8	8	8	3	5	4	4	2	3	0	48
拒 否	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
計	58	96	79	90	86	62	58	44	43	25	28	669

また、年令10才ごとにとりまとめ、各年層の“正答”の%を出したが、つぎの表である。但し、この“計”は拒否をのぞいている。

第 2.5 表

(1) 年	20代	30代	40代	50代	60以上	計
正 答	83	107	103	64	51	408
正答/総計 (%)	54	63	70	63	53	61

第 2.8 図



ここで 30 才代, 40 才代, 50 才代お互いの間に, 有意な差はない。

しかし 20 才代の 54% は, 40 才代の 70% より有意に小さい。

すなわち, 40 才代は 20 才代よりよく知っているが, ほかの年齢をくらべても差はみとめられない。

第 2.9 表

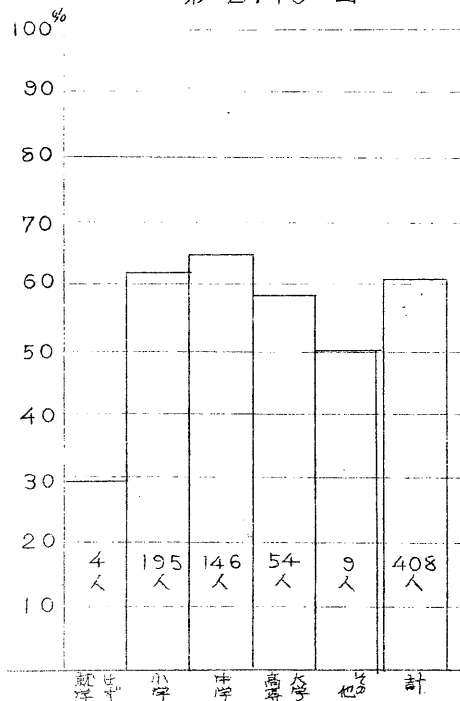
学 厂 (1)	就学しない	小 学	中 学	高 専	大 学	その他	横 計
正 答	4	195	146	27	27	9	408
知らない	9	98	63	19	13	9	211
まちがい	1	19	21	6	1	0	48
拒 否	0	1	0	1	0	0	2
縦 計	14	313	230	53	41	18	669

さらに、各学厂内の正答率をみれば、

第 2.10 表

学 厂 (1)	就学しない	小 学	中 学	大学高専	その他	計
正答/縦計 (%)	29	62	63	58	50	61

第 2.10 図



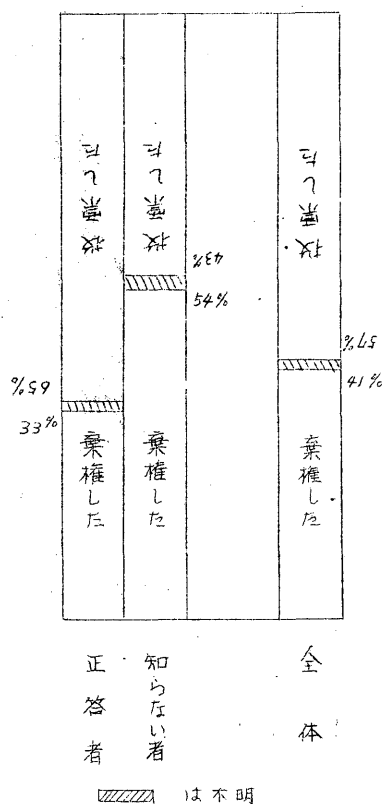
“就学しない”の正答
29% は、全部の正答
61% に対して有意に
小さいが、ほかの学厂で
はこれと有意な差がない。
すなわち、“就学しない”
ものは投票日から何日かも
正し 答えられないもの
が多いが、学厂のあるも
のでは、その学厂段階に
よつて、知る知らないの
差はなく 50 ~ 60 %
が知っている。

以上のように，（１）投票日は何日か？ をいくつかの基準について分析してみたが，ここで，実際に投票したものをしらべると，つぎのようになる。 但し %

第 2. 11 表

実 投 (1)	正 答	知らない	まちがい	拒 否	計
投票した	65	43	少 い か ら 計 算 し な い		57
棄権した	33	54			41
不 明	2	4			2
計	100	100			100

第 2. 11 図



“知らない”といつたもののうち，半分以上が棄権しているが，43%もが投票している。また正答をしても33%が棄権している。

この調査は投票日のたった2,3日前におこなつたので，このとき投票日を知らなければ，投票に関心がないと思われるが，このように43%も投票していることは，特に注意する必要がある。

この（１）の解答が，実際投票を推定するのにどれだけ寄與するか，寄與量をみると，あまり大きいとはいえない。

(2) 立候補者は何人ですか？ を性別にみれば、つきのとおりである。

第 2. 12 表

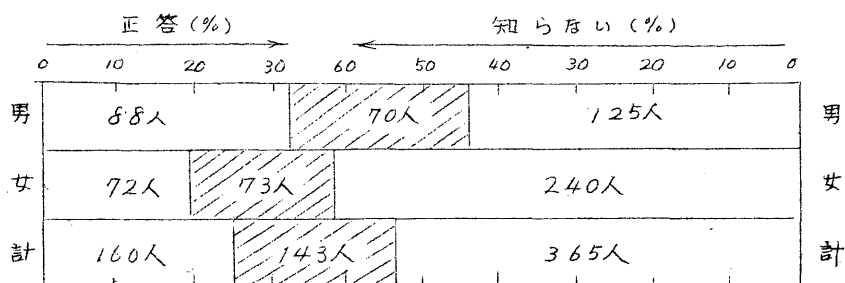
(2) 性	正 答	知らない	まちがい	数 人	拒 否	計
男	88	125	58	12	1	284
女	72	240	52	21	0	385
計	160	365	110	33	1	669

第 2. 13 表

(%)	正 答	知らない	まちがい	数 人	計
男	31	45	20	4	100
女	19	63	13	5	100
計	24	55	16	5	100

(拒否を含まず)

第 2. 13 図



は「まちがい」と「数人」をあげたもの

男の「正答」31%は女の「正答」19%より有意に大きく、男の「知らない」45%は女の「知らない」63%より有意に小さい。また男の「知らない」45%、「正答」31%、「まちがい」20%の間には有意な差がある。女の「知らない」63%は、「正答」19%、「まちがい」13%より有意に大きいから、「正答」と「まちがい」の間には有意差はみとめら

はばい)。

すなわち、男の方が女よりよく知っているが、男女とも「知らない」ものの方が「正答」や「まちがい」が多い。

(2) 候補者は何人か？ を年齢別にみれば
第 2.14 表

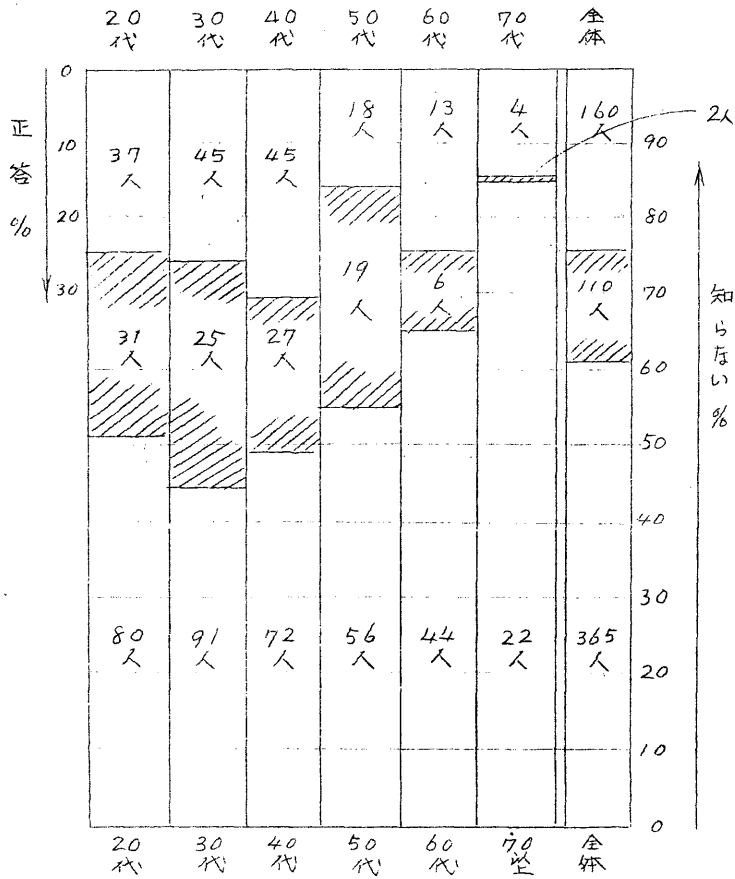
オ (2)	20~ 24	25~ 29	30~ 34	35~ 39	40~ 44	45~ 49	50~ 54	55~ 59	60~ 64	65~ 69	70 以上	計
正答	13	24	18	27	26	19	9	7	11	2	4	160
知らない	34	46	39	52	44	28	32	24	26	18	22	365
まちがい	11	20	16	9	14	13	11	8	3	3	2	110
数人	0	6	6	2	2	2	5	5	3	2		33
拒否							1					1
計	58	96	79	90	86	62	58	44	43	25	28	669

これを10オごとにまとめて、パーセントをだすと、つぎのとおり。但し拒否をのぞいた668人について。

第 2.15 表

オ (2)	20代	30代	40代	50代	60代	70以上	計
正答	24	26	30	16	19	14	24
知らない	52	44	49	55	65	85	46
まちがい	20	15	18	19	9	1	15
数人	4	5	3	10	7	0	5
計	100	100	100	100	100	100	100

第 2.15 図.



○

はまちがい, 数人, 拒否

ここで「正答」のパーセントをみれば、20代、30代、40代までと、50代、60代、70以上の間には有意な差がある。

すなわち、49才までの方が50才をこえたものよりよけいに知っている。

(2) 立候補者は何人か？ と学歴をみれば

第 2.16 表

	就学しない	小 学	中 学	高 専	大 学	その他	横 計	横計/総計 (%)
正 答	1	65	64	15	12	3	160	24
正答/総計 (%)	7	21	28	28	29	17	24	
知らない	11	182	114	27	17	14	365	46
まちがい		53	40	7	9	1	110	15
数 人	2	12	12	4	3		33	5
拒 否		1						
縦 計	14	313	230	53	41	18	669	100
縦計/総計 (%)	2.1	46.9	34.3	7.9	6.1	2.7	100.0	

“就学しない”の‘正答’は全部の‘正答’にくらべて、有意に小さいが、他の各学歴では、 $\frac{1}{4}$ が‘正答’していて、学歴の差はみとめられない。

年令別の(1)投票日、(2)何人を%にして三角グラフに画いたのが、第2.17図である。

両方をくらべてみて40代が一番正答率が高い。他の年令も、非常にちがった傾向を示しているわけではない。

(3)立候補者の名前を知っていたらいつて下さい、の性、年令、学歴別などによる集計分析は他の質問のそれの方が興味ある。そこでここでは、この質問につづいて聞いた(4)(5)をあはせてみる。

(3)立候補者名別の単純集計は、つぎのとおり。パーセントは全サンプルに対するもの。

第 2.18 表

(3)	矢 田	佐 藤	難 波	石 橋	千代田	一人も知らない
知っている	254	97	217	135	73	182
%	38.6	14.5	32.5	20.2	10.9	27.2

(3)知っている候補者名を(4)その政党をみれば、つぎのとおり。

第 2.19 表

(4)	矢 田	佐 藤	難 波	石 橋	千代田
正 答	134	43	201	72	30
そ の 他	120	54	16	63	44
計	254	97	217	135	74

ここで、政党を正しく知っていたものの、%をしらべる。次の表の正答/(3)とは、(3)でその人を知っていると答えたものに対する%で、正答/総計は総数669人のうち、政党ま

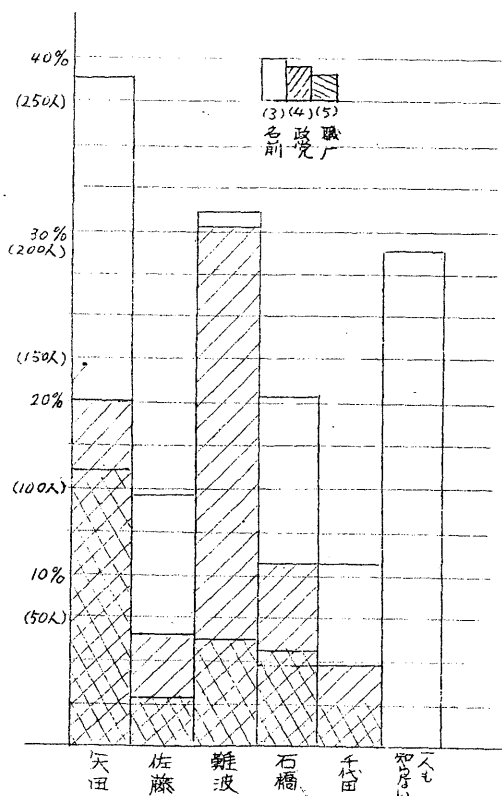
で知っていたものについての % である。

第 2.20 表

(4) \ (3)	矢 田	佐 藤	難 波	石 橋	千代田
正答 / (3)	52.6	44.4	92.5	53.3	40.5
正答 / 総計	20.0	6.4	30.1	10.8	4.5

これからみれば、難波を知っていたものは、ほとんど全部が彼が共産党であることを知っていた。その他かの名前を知っているものの政党は 40 ~ 50 % 位が知られていた。

第 2.20 図



たゞ名前を知っているだけなら、矢田と難波の間には有意差はなく、30 ~ 40 % 位であるが、その政党を含めて——すなわち、‘矢田という民自党員’、‘難波という共産党員’を——知っているものをみれば、難波の方が矢田より多い。

すなわち、矢田も難波も同じ位国民に知られているが、難波は共産党員として知られており、矢田の方は政党以外の理由で知られている。

(3) 知っている候補名の (5) 職業、経歴を知っているかどうかしらべれば、

第 2.21 表

(5) \ (3)	矢 田	佐 藤	難 波	石 橋	千代田
正 答	108	20	41	32	13
そ の 他	146	77	176	103	61
計	254	97	217	135	74

こゝで職業、経歴全部を知らなくても、ある程度知っていれば正答とした。

これをまたパーセントにしてみれば、つぎのとおり

第 2.22 表

	矢 田	佐 藤	難 波	石 橋	千代田
正答/(3)	42.5	20.6	19.9	23.7	17.5
正答/総計	16.1	3.0	6.1	4.8	1.9

これからみると、矢田を知っているものの約半分はその職業か経歴を知っているが、難波の方はこれより低い。

これと第 表とあはせて考えれば、矢田はいわゆる「人物本位」に知られており、難波は党ときりはないとは考えられない、ことがわかる。

(6) 立候補者の誰かを個人的に知っていますか？ (7) それはどんな関係ですか？ をあはせてみれば、

第 2.23 表

(6) \ (7)	公務団体	職業	友人	知会	近所	不明	計
矢 田	4	7	4	8	3	2	28
難 波	1	2				1	4
石 橋	3	4	1	1	1		10
不 明	2	1				6	9
合 計	8	13	5	9	4	9	48

但し「不明」というのは個人的に知っている人はあるが、名前をあげなかつたもの。

このようにサンプルのわずか7%しかないので、こまかい分析をしてもつまらない。また、その人との関係も散つてしまう。

さらに(6)で知っているといつた人と、(36)誰に投票したかをみれば、

第 2.24 表

	矢 田	難 波	石 橋	不 明	計
(6)と同じ	20	1	4		25
(6)とちがう	3	0	3		6
拒 否	5	3	3	6	17
計	28	4	10	6	48

(6)であげた人に、(36)で投票したというのは、半分ぐらいしかない。

(8) 誰かから推薦をされた候補者がありますか？ であると答えたものは14人(2%)しかない。

そこで(9) 誰から推薦されたか？ もいみがないので集計しない。

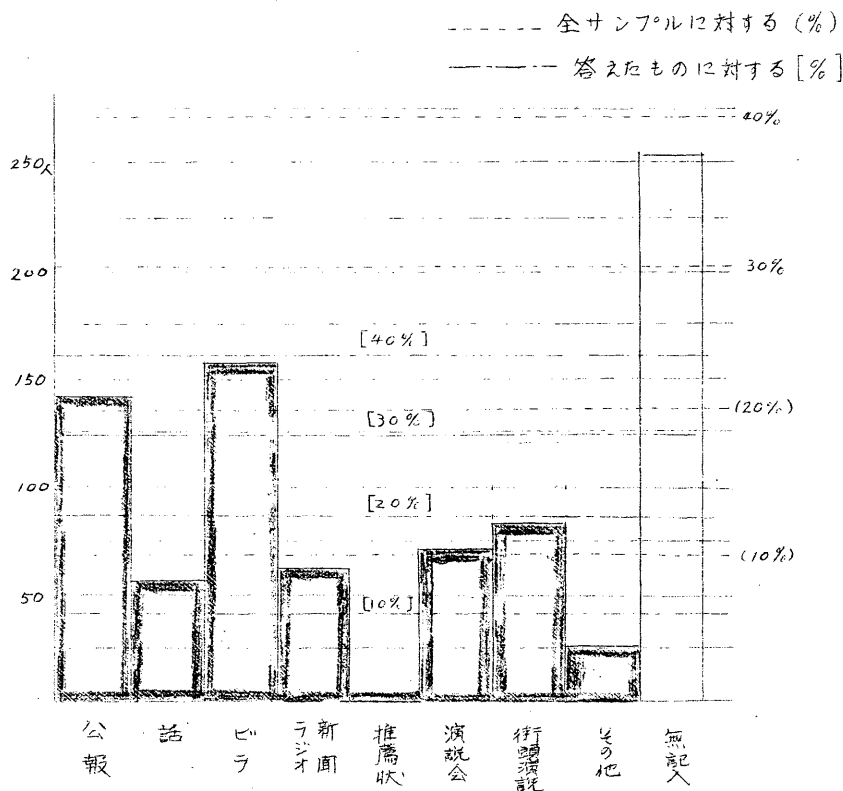
(10) 何んで候補者を知りましたか？ の単純集計はつぎのとおり、

第 2. 2 5 表

	公 報	話	ビラ	新聞 ラジオ	推薦状	演説会	街頭演説	その他	記入合計	無記入
実数	142	54	157	56	3	68	78	25	583	255
A	21.2	5.1	23.5	5.4	0.4	10.2	11.7	3.8	—	38.2
B	34.2	13.0	37.8	13.5	0.7	16.4	18.7	6.3	140.8	—

A 行は実数の全サンプル数(669人)に対する % , B 行は記入した者(669人 - 255人 = 414人)に対する % をあらはす。

第 2. 2 5 表



これからみれば、ビラ、公報は全体の約20%が見ている。
つぎに街頭演説、演説会は約10%で、新聞・ラジオ、
誌では約8%、推薦状はわずか0.4%にすぎない。

ビラがこのように多くの人の注意をひいているのは当然であ
らう。公報も非常に多いのに、新聞とラジオが低いのは、国
会議員の選挙とか、知事選挙などのような大規模なものでない
ため、新聞やラジオではほとんどとりあけられなかつたからで
あらう。

また推薦状が少ないことは、(8)推薦をうけた候補者があ
りますか？ のわずか2%と考えあはせて、個人的な選挙運
動があまり大きな意味をもたないこと、を示しているだろう。

(11) 区長が決れば今迄と区政が変わると思いますか？

第 2. 2 6 表

	変 更	変らない	わからない	その他	拒 否	計
実 数	207	208	228	19	7	669
%	30.9	31.0	34.2	2.8	1.1	100.0

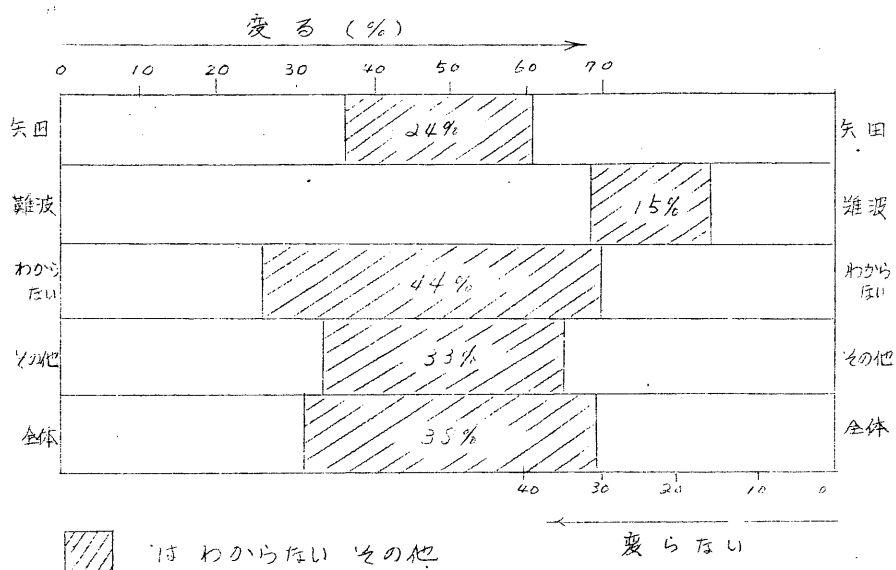
‘変る’，‘変らない’，‘わからない’の間に有意な差はな
い。どれも約1/3つつをしめている。

これを(17)誰れに投票するつもりですか？ によって分けて
みれば、

第 2. 2 6 表

(17) \ (11)	変 更	変らない	わからない	その他	計	計(実数)
矢 田	37	39	23	1	100	121
難 波	68	17	10	5	100	40
わからない	26	30	41	3	100	435
その他	33	35	29	3	100	66
計	31	31	35	3	100	662

第 2.26 図



これから分かるように、難波に投票するという者は、半分以上が区政は変わるだろうといっているが、難波以外に投票するつもりの方は、‘変わる’‘変わらない’、‘わからない’がほとんど $\frac{1}{3}$ ずつである。

(2) 当選してもらいたい人は誰ですか？ を (17) 誰に投票するつもりですか？ の相関をみれば

第 2.27 表

12 \ 17	矢 田	佐 藤	難 波	石 橋	4代田	合 同	わかぬ	拒 否	計
矢 田	81	1	1			3	16	2	104
佐 藤		3					1		4
難 波			34				2	1	37
石 橋				13		4	2		19
4代田					4				4
合 同	6		1	2		1	3		13
わかぬ	33	2	4	3	1	7	412	11	473
拒 否	1	1					9	4	15
計	121	7	40	18	5	15	445	18	669

合同とは2人以上の名前をあげたもの

(12), (17) の両方ともで、はつきり名前をあげた137人のうち、2人(1.5%)をのぞいては、両方であげた名前は一致している。しかしこの137人は全サンプルの20.4%にすぎない。

名前をあげなくても、(12)と(17)で同じ答え方をすれば、第2.27表で対角線の上にはのるはずである。全サンプルのうち、対角線にのらないものは117人(17.5%)もある。

さらに、一方の質問で、一人の名前をあげ、他の質問で合同となっている者は、前者であげた名前は Weight がかゝつていた表現をしたものと考え、'合同'をばいいても、対角線からはみれるものは90人(13.5%)ある。

なお、はつきり人名をあげなかった者は、(12)では488人、(17)では463人であるが、この間には有意差はない。

すなわち(12)でも(17)でも同じ程度にはつきりした解答は得られなかった。

拒否の 15 人 (12) , と 18 人 (17) の間にも有意差はない。
結局 (12) のような聞き方と, (17) のような聞き方の間で
、20% もくいちがいがあるが、この差はアイマイな答え方を
する者によつて起るので、どちらの質問方法がすぐれているの
ということとは、わからない。

(14) 当選してもらいたくない人は誰ですか? をみれば

第 2.28 表

	矢 田	佐 藤	雄 波	石 橋	4 代 田	合 同	な し	拒 否	計
実数	3	0	114	0	1	11	528	12	669
%	0		17		0	2	79	2	100

これから分るように、嫌な人はない者か——但し、全部の立
候補者を知らない者が多い——79% もあり、はつきり名前
をあけて嫌われたのは雄波 17% だけである。

こゝで相関をとつてはみなかつたが、この雄波について (3)、
(12)、(14)、(17) をくらべれば

第 2.29 表

	実 数	%	(14)/(13) %
(3) 雄波を知っている	217	32.5	100
(12) 雄波が好い	37	5.5	17
(14) 雄波は嫌い	114	17.1	52
(17) 雄波に投票する	40	6.0	18

これから雄波を知っているうちの半分には嫌はれ、好意をもち
また投票したものは、彼を知っているものの 1/5 であるから
、知っていて好きでも嫌でもないものは 30% 位になる。

(17) 誰に投票するつもりですか？ と (22) 支持政党をくらべてみると

第 2.30 表

(17) (22)	矢田	佐藤	難波	石橋	千代田	合同	わからない	その他	拒否	計
民自	64	1	1	5	3	6	138	1	5	224
民主	6	2	1	2		2	16		2	31
保守	3					1	8		1	13
社会	9	2	3	1	1	1	37		2	56
共産			31				14			45
急進			1				2			3
その他	1						3			4
なし	38	2	3	10	1	5	222	4	8	293
計	121	7	40	18	5	15	440	5	18	669

しかし、有力な政党の社会党、民主党からの立候補者がないので、かんたんな直線的な様子は期待できない。

またいわゆる中道派のこの二党が、民自（矢田）、共産（難波）にどうわれるかは、当時の社会事情のもとで、浮動票がどうわれるかを知るのに、大きな指針を興えるものであるが、‘わからない’が多くて簡単には分析することができない。

(17) 誰れに投票するつもりですか？ を (18) それは何故ですか？ と組合せてみれば、

第 2. 3 1 表

(18) \ (17)	矢 田	佐 藤	難 波	石 橋	4代田	合 同	計
A. 民自党がすき	29						29
B. 共産党がきらい	1			1		2	4
C. 共産党がすき			13			2	15
D. 政策に賛成	9	1	15	1	2	1	29
E. 経歴による	16			2		1	19
F. 人物本位で	17		3	6		1	27
G. 知 人	3						3
H. 土地の人	4	2		3			9
I. なんとなく	4	1	1	3			9
J. そ の 他	7	2	2	2	3	3	19
K. 無 記 入	30	1	6			5	42
M. 拒 否	1						1
計	121	7	40	18	5	15	206

(36) 誰れに投票しましたか？ を(35)何故その人に投票しましたか？ と組合せてみれば

第 2. 3 2 表

(35) \ (36)	矢 田	佐 藤	難 波	石 橋	千代田	不 明	拒 否	計
A. 民自党がすき	58						1	59
B. 共産党がきらい	18			1	1			20
C. 共産党がすき			24					24
D. 政策に賛成	29		18	3			1	51
E. 経歴による	30		2	10	2			44
F. 人物本位で	55	1	1	3			1	61
G. 知 人	18		1	3				22
H. 土地の人	7	1		7				15
I. なんとなく	22		2	4			2	30
J. その他	6	1	6	3	2	16		34
K. 無記入	18	4	3	7	1	2	7	42
M. 拒 否	15		1	1	1		12	30
計	276	7	58	42	7	18	24	432

これらの二つの表をみて、民自党がすきなものは、矢田に、共産党がすきなものは難波に投票するとか、したとか云っている。共産党がきらいなものは、難波には投票しない、こんな片断的な結果位しかとられない。

なお、(17)誰れに投票しますか、と(36)誰に投票しましたかの比較は第5章でしてある。

(19)投票に行くか行かないか。

第 2. 33 表

	実 数	%
必ずゆく	224	33.5
大抵ゆく	103	15.4
まあゆく	79	11.8
ゆく	155	23.2
判らない	24	3.6
ゆかない	2	0.3
まあゆかない	18	2.7
大抵ゆかない	15	2.2
必ずゆかない	48	7.2
その他	1	0.1
計	669	100.0

これをゆく、ゆかないに分けてみれば、

第 2. 34 表

	実 数	%
ゆく	561	83.9
ゆかない	83	12.4
判らない	25	3.7
計	669	100.0

となり、ゆく方が非常に多い。

(21A) 衆議院の選挙は誰にしましたか？ を所属政党によつてまとめれば、つぎのようになる。

第 2. 35 表

	民 自	民 主	社 会	共 産	無所属	忘れた	棄権	拒否	その他	計
実数	211	55	59	67	13	19	198	28	19	669
%	31.6	8.2	8.8	10.0	2.0	2.8	29.6	4.2	2.8	100.0

これを(17)誰にするつもりか？ と組みあはせてみれば、

第 2. 36 表

(21A) (17)	民 自	民 主	社 会	共 産	無所属	忘れた	棄権	拒否	その他	計
矢田	66	13	10	5	2	1	21	2	1	121
佐藤	2	2					1	1	1	7
難波	1		3	28			7	1		40
石橋	7	1	1	1			6		2	18
千代田	2		2				1			5
合 同	5	2	1		1		6			15
わからぬ	133	33	40	32	10	18	154	22	13	445
拒否	5	4	2	1			2	2	2	18
計	211	55	59	67	13	19	198	28	19	669

(17) 誰れに投票するつもりですか？ と(36) 誰れに投票しましたか？ をあはせてみる。

第 2. 37 表

(17) (36)	矢 田	佐 藤	難 波	石 橋	4代田	合 同	わからない	その他	拒 否	計
矢 田	92	3	3	2		5	161	2	8	276
佐 藤		1					6			7
難 波	4		24				28		2	58
石 橋		1		11		8	21	1		42
4代田					3		4			7
不 明	3	1	3	1			9		1	18
棄 権	21		9	4	2	1	194	2	4	237
拒 否	1	1	1			1	17		3	24
計	121	7	40	18	5	15	440	5	18	669

(17)ではつまり名前をあげたのは191人(全体の29%)である。このうち(36)で同じ名前をあげたのは138人であるから、“Xさんに入れる”と云った人の72%が、“Xさんに入れた”と答えた。

また(17)で‘わからない’といったものは440人(全体の66%)である。このうち194人が棄権しているから、(17)で‘わからない’といったものの44%が棄権している。なお(36)の数字は、別の率でもふれているように、実際矢田に投票しなくても、当選した矢田の名をあげた者があるらしいので、この44%はもつとふえると思われる。

(22) 好きな政党はなんですか？ を職業別にみる。

第 2.38 表

	民自	民主	社会	共産	保守派	急進派	其の他	なし	計
商 店	28	4	2	3	2		1	26	66
経 営 者	16	1	3	3	1			9	33
知的労働者	6	1	1	4	2		1	13	28
工 員	7	1	11	4		1		9	33
筋肉労働者	12	4	4	3		1		14	38
事務員	28	2	10	7	2		1	29	79
接客業	21	1	1	2	1		1	11	38
無 職	4	1	2	1				15	23
主婦	96	15	22	17	5	1		159	315
学 生	6	1		1				8	16
計	224	31	56	45	13	3	4	293	669

各職業を支持政党の % になおせば、

第 2.39 表

	民自	民主	社会	共産	保守派	急進派	その他	なし	計
商 店	42	6	3	5	3		2	39	100
経 営 者	49	3	9	9	3			27	100
知的労働者	21	4	4	14	7		4	46	100
工 員	21	3	33	12				27	100
筋肉労働者	31	10	10	8		3		38	100
事務員	35	3	13	9	3		1	36	100
接客業	55	3	3	5	3		3	43	100
無 職	17	4	9	4				66	100
主婦	30	5	7	5	2	0		51	100
学 生	38	6		6				50	100
計	33	5	8	7	2	0	1	44	100

無職，主婦，学生は支持政党なしは半分以上で，知的労働者も 50 % に近い。 工員の社会党をのぞいては，どの職業でも民自党支持が一番多い。

(21) 衆議員選挙をしましたか？ と (31) 区長選挙をしましたか？

第 2. 40 表

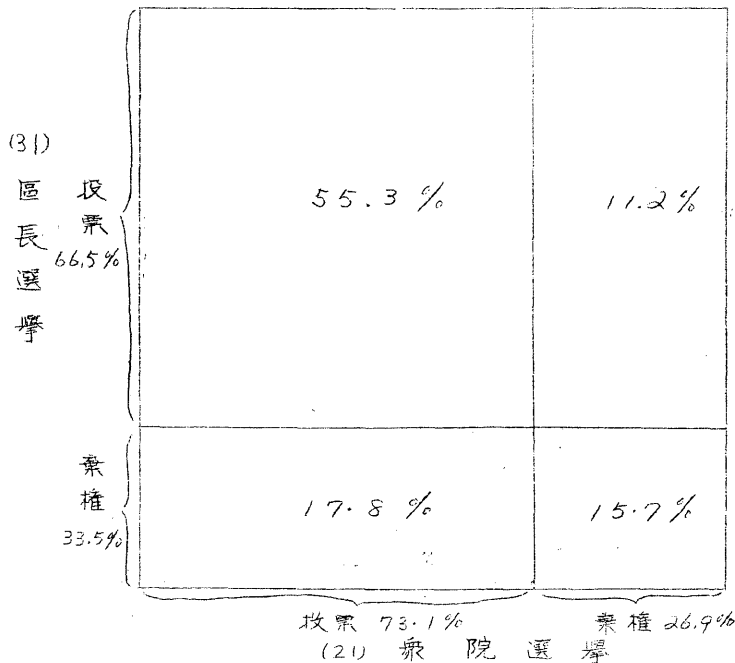
(31) \ (21)	投票	棄権	計
投票	370	75	445
棄権	119	105	224
計	489	180	669

(31) \ (21)	投票	棄権	計
投票	55.3	11.2	66.5
棄権	17.8	15.7	33.5
計	73.1	26.9	100.0

(31) \ (21)	投票	棄権
投票	75.1	41.6
棄権	24.3	58.4
計	100.0	100.0

(31) \ (21)	投票	棄権	計
投票	83.1	16.9	100.0
棄権	53.1	46.9	100.0

第 2. 40 図



これらの表からわかることは、

- 1° 約半分は両方の選挙に投票している。
- 2° 約 15 % は両方の選挙に棄権する。
- 3° 衆議院で投票したもののうち、 $\frac{3}{4}$ が区長でも投票している。
- 4° 衆議院で棄権したもののうち、約半分が区長でも棄権している。

(21 B) 衆議院選挙を棄権した理由；と (31 B) 区長選挙を棄権した理由の関係をみる。

第 2. 4 1 表

(21 B) (31 B)	A.	B	C	D	E	F	G	H	I	J	計
A. 在宅しない	4		1	2						15	22
B. 仕事の都合	1	4				1	1	1		33	41
C. 家事の都合	3		14	5	2	5	3			26	48
D. 病気、出産	1		2	19		4	5		2	21	54
E. 身体不自由					5		2			2	9
F. その他の理由	1		2		1	3	2			11	20
G. 無関心	3	1	3	1		1	8			7	24
H. 事務上の手違い								2			2
I. 拒否										4	4
J. 投票した	12	5	12	21	10	5	4	6			75
計	25	10	34	48	18	19	25	9	2	119	299

いま一方の選挙で棄権しても、他方の選挙で投票したものの率を、前者の棄権理由別（すなわち J/A , J/B , --- J/G ）にみると、つぎのとおり。

第 2. 42 表

	A	B	C	D	E	F	G
(3) の投票率 (%)	40	50	35	44	55	26	16
(2) の投票率 (%)	68	80	54	39	22	55	29

これからわかることは、

- 1° G無関心なら、他の選挙でも投票率が低い。
- 2° A 在宅しない、B 仕事の都合、C 家事の都合、D 病気、出産などでは、他の選挙での投票率は 50 % 前後を示している。
- 3° E 身体不自由者、F その他の理由では、2 回の選挙に一定の傾向が見えないし、またサンプルが少ないので、なんともいえない。

§ 2.3 留置調査の集計と面接調査との比較

留置の調査はサンプル数が少なかったため、あまり細かい分析はいみがない。主な結果だけ面接の場合や、全体とくらべながらのべることにする。

先きにものべたが、留置の割合はつぎの通りである。

第 2.43 表

	面 接	留 置	調査不能	合 計
%	56.6	13.2	30.2	100.0

性別の構成

第 2.44 表

	男	女	計	%	男	女	計
面 接	284	385	669	面接	42.5 < 57.5		100.0
留 置	117	39	156	留 置	75.0 > 25.0		100.0
全 体	401	424	825	全 体	48.6	51.4	100.0

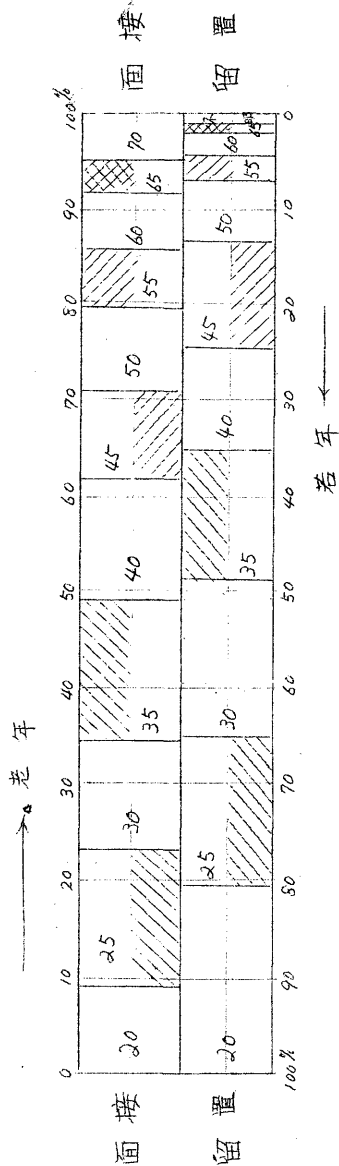
この % から男は留置の方がずっと多い（外出しがち）、ことがはつきりわかる。

年 令 別 構 成

第 2. 4 5 表

	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~	不 明	計
面接	8.7	14.3	11.8	13.4	12.9	9.3	8.7	6.6	6.4	3.7	4.2	0.0	100.0
留 置	19.3	15.4	15.4	14.1	10.9	11.5	6.4	3.2	2.6	0.6	0.0	0.6	100.0
全 体	10.7	14.6	12.5	13.6	12.5	9.8	8.2	5.9	5.7	3.1	3.4	0.6	100.0

第 2. 4 5 図



この図からみても分かるように、若いものは留置が多い。

各年層の間で差のあるのは、20～24才では留置の方が多く、65～69才では留置の方が少なく、他の年層では差はない。しかし若い方からの累積をとつて比較すると、64才までは留置の方が有意に多い。すなわち若い方では外出が多い。

(1) 投票日は何日か？

第 2.46 表

	正 答	知らない	まちがい	拒 否	計	サンプル計
面 接	61.0 > ^	31.6 > ^	7.1 > x	0.3 x	100.0	669
留 置	86.0 >	6.3 x	6.3 >	1.4	100.0	156
全 体	65.7	26.8	7.0	0.5	100.0	825

これから、当然のことであるが、留置の方が正しい答がずっと多くてることがわかる。

(2) 何人立候補しているか？

第 2.47 表

	正 答	知らない	まちがい	計
面 接	24 < ^	55 > v	21 v	100
留 置	81 >	14 >	5	100
全 体	35	47	18	100

これでも(1)と同様に、留置の方が正しく答えたものが面接よりはるかに多い。しかも面接では知らないものが一番多かったのに、留置では正答が一番多くなっている。

(3) 候補者の名前

第 2.48 表

	知らない	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	計
面接	43 V	24 X	16 X	8 X	5 X	4	100
留置	15	23	16	13	7	26	100
全体	38	24	16	9	5	8	100

面接の中で知らないの 43% は他のものにくらべて有意に大きく、留置では 5 人知っているものがわりが多い。面接、留置をくらべてみても、留置の方が面接よりよい回答をしていることが分かる。

(17) 誰れに投票するつもりか？

第 2.49 表

	矢田	佐藤	難波	石橋	千代田	合同とわからない	その他	拒否	計
面接	18.1 A	1.0	6.0	2.7	0.7	67.9 1	0.9	2.7	100.0
留置	32.7	3.8	10.9	3.8	3.8	41.8	3.2	0.0	100.0
全体	20.8	1.6	6.9	2.9	1.3	61.2	3.1	2.2	100.0

これによれば“わからない”が留置では大分へつており、‘矢田’がふえている。さらにはつきり名前をあげたものをみると、面接では 28.5%，留置では 55.0% で大分差がでる。

(19) 投票に行く，行かない。 第 2.50 表

	ゆ　　く	判らない	ゆかない	計
面接	83.9	12.4	3.7	100.0
留置	83.4	12.7	3.9	100.0
全体	83.7	12.5	3.8	100.0

これでは面接と留置の差はみとめられない。

以上、面接と留置をくらべてみると、知識についての傾向では留置の方がよい結果が出ているが、態度の調査では、差がみとめられない。もつともこゝで知識とか態度といった言葉の意味はあまり厳格なものではない。

(22) 夫持政党

第 2. 5 1 表

	民 自	民主	社会	共 産	保守	急 進	その他	なし	計
面接	33.5	4.6	8.4	6.7	1.9	0.4	0.6	43.9	100.0
留 置	34.0	5.1	12.8	7.7	0.0	0.6	1.9	37.9	100.0
全 体	33.5	4.7	8.2	6.9	1.6	0.5	1.0	42.6	100.0

上の表からわかるように面接、留置で差はない。

もう少しまとめて

第 2. 5 2 表

	政党名をあげたもの	政党名をあげないもの	計
面 接	53.2	46.8	100.0
留 置	59.6	40.4	100.0
全 体	54.3	45.7	100.0

としてみても、留置にすることによつて、政党名をよりはつきり知ることが、できるわけではない。

§ 2.4 結果の分析

この調査では、前後 36 個の質問をしているが、これらの質問の間には、たがいに関連があるし、なかには別の質問に從属しなければならないものさえある。

また結果から予想をするために、どの要因がどのような程度で働いているかをしらべる必要がある。普通の相関係数では二つの要因の相互の関係を知ることができるが、ここでは、一つの要因はむしろ結果と呼んだ方がよいもので、この一つの結果に対して、要因をとりかえてみて、どの要因が一番有力なものかを知りたい。

そこで「寄與量」⁽¹⁾という係数を計算してみた。

この量は、寄與する方の項目を k とすれば $\frac{1}{k} \leq f \leq 1$ の値をとる。 f' は f を $0 \leq f' \leq 1$ になおした量である。

1. 投票、棄権に対する寄與

第 2.53 表

項 目	f	k	f'
性 別	0.51	2	0.34
年 令 別	0.53	12	0.52
男 の 年 令 別	0.54	12	0.53
女 の 年 令 別	0.50	12	0.50
学 歴	0.52	6	0.50
職 業	0.53	14	0.53
(1) 投票日は何日ですか	0.55	4	0.52
(2) 立候補は何人か	0.55	4	0.52
(4) 候補者の政党名知識	0.57	6	0.56

① (1) Contribution とよばれるこの量については、「講究録」を見よ

(11) 區政は変えると思うか	0.53	6	0.51
(12) 誰れになつてもらいたい	0.57	6	0.55
(14) 誰れになつてもらいたくない	0.54	6	0.53
(17) 誰れに投票するつもりか	0.53	9	0.52
(19) 投票するつもりか	0.60	10	0.60
(19) " (まとめたもの)	0.57	5	0.56

これらを見ると、投票するか？ の寄与が一番大きい。
すなわち、‘行く’といつたものはよく投票するし、‘行かない’といつたものは棄権するものが多い。

次に、寄与の少ないのは、性別である。—— すなわち、男だから、女だからということで、投票するとか、棄権するときまるわけではない。

その他の項目については、あまりちがいのない寄与を示している。

ここで注意をひくことは、男の年齢別の寄与量は、女の年齢別の寄与量より大きい。すなわち、男では年をとると棄権しやすいが、女では年齢の別なく棄権する。

2. 実際の投票、棄権に対する寄与

第 2.54 表

項 目	f	k	f'
(1) 投票日は何日か	0.53	3	0.47
(6) 立候補者を個人的に知っているか	0.54	5	0.52
(8) 推薦をうけたものがあるか	0.53	5	0.51
(12) 誰れが區長になつてもらいたい	0.52	6	0.51
(14) 誰れになつてもらいたくない	0.52	6	0.50
(16) 誰れにするか判断できるか	0.53	5	0.51
(19) 投票に行くか	0.57	10	0.56

(19)' 投票に行くか(まとめのもの)	0.54	5	0.53
----------------------	------	---	------

これをみても、(19)、(19)'が高い。しかも、質問に対する答之のときより、実際の方が低い。

これは当然であらう。他の項目も前の場合とあはせてみて、余りかはりはない。

3. (17) 誰れに投票するつもりか？ 之の寄與 第 2.55 表

項 目	f	n	f'
(12) 誰れになつてもらいたい	0.69	6	0.68
(14) 誰れになつてもらいたくない	0.50	6	0.49
(22) 支 持 政 党	0.49	8	0.49
(10) 何で候補者を知ったか	0.46	10	0.46
(21) 衆院で誰に投票したか	0.49	8	0.49
(11) 区政は変るか	0.27	6	0.25

(12) 誰れになつてもらいたいかの寄與が一番大きい。

(11) の区政は変るかの寄與量は、当然小さい。これは他の寄與量と比べるために出してみたものである。他の寄與はそれほど大きいとは云ない。

4. (36) 誰れに投票したか？ 之の寄與

第 2.56 表

項 目	f	k	f'
学 歴	0.46	6	0.45
職 業	0.47	14	0.47
(6) 個人的に知つてゐるか	0.46	5	0.41
(8) 推薦を受けたか	0.47	5	0.44
(11) 區政は變るか	0.47	6	0.46
(12) 誰れになつてもらいたい	0.52	6	0.51
(14) 誰れになつてもらいたくない	0.44	6	0.42
(17) 誰れに投票するつもりか	0.39	9	0.38
(19) 投票するか	0.46	10	0.46
(19)' " (まとめたもの)	0.46	5	0.44
(21) 衆院に投票したか	0.37	9	0.37
(22) 支持政党	0.53	10	0.53
(32) 何時投票しようとしたか	0.46	7	0.45
(33) 誰れから相談しましたか	0.48	5	0.45

5. (22) 支持政党に対する，職業の寄與は

第 2.57 表

f	k	f'
0.3295	10	0.3288

この値はあまり大きくない。

職業のわけ方によつては，多少變わるかもしれないが，それ程大きな動きは見せないだろう。

6. (31) 区長選挙に対する, (20) 衆院選挙
の寄興

第 2. 58 表

f	k	f'
0.5987	2	0.4649

これは衆院選挙の枚票, 棄権が, どのくらい区長選挙に寄興
しているかをみたのだが, 寄興量はあまり大きくない。

第3章 郵便調査について

我々は訪問調査出来なかったものをどの様にとりあつたか。

§ 3.1 調査出来なかった理由はどの様なものであったか、又それが帰国出来るものであるかについて。

我々は選挙人名簿からうつしとつた有権者をその住所と氏名によって訪問し、調査をしたのであるが、調査員が、移動その他の理由で調査出来なかったとして持返ったサンプルが354人あった。これはサンプルの30%にあたるものである。これを調査出来なかった理由別について分類してみると、

第3.1表

	稼働	死亡	病気	その様 人はいない	出 発	不在	拒否	不明	計
人 数	73	4	18	49	35	51	11	112	354
%	20.6%	1.1	5.1	13.9	10.2	14.4	3.1	31.6	100%
サンプル全体に 対する %	6.2	0.3	1.5	4.2	3.1	4.3	0.9	9.5	30%

ここで「その様な人はいない」といふのは、渡されたりストの住所、つまり選挙人名簿にのつてゐる住所に、その名前選挙人がいないといふことが、きいてまわつた結果わかつたというのであり。その近所を聞いてまわつたがいないかいないかわからないといふのを不明とするはちであつたが、調査員をが時間がない等の理由でまわらなかつたサンプルもこの不明の中に入つてしまつた。だからもう少し時間その他に余裕があれば、この全サンプルの9.5%、調査出来なかったものの31.6%をしめる不明といふものは、調査出来るか、又はその他の調査出来ない理由があつたわけである。だから或意味でサンプルから除外すべき数なのである。結果我々の場合2日間に24人の調査は無理であつたと思はれる。

後にこの調査出来なかつたサンプルに対して、往復ハガキで

調査したところ、この調査出来ない理由として調査員が挙げたものがそれほど信用出来るものではないといふことがわかった。といふのは調査員が移転のため調査出来なかったと報告したもののうち八がキ回答が来たのである。そこでこれについてしらべてみると

第3.2表

	移転	死亡	病氣	その様な人はいない	出張	不在	拒否	不明	計
回答、アンケート	7		13	19	23	27	7	36	133
返送	23			20	6	6		48	103
送達回数	48	1	20	43	38	50	10	103	314

ただし、この時再び選挙人名簿をみて移転であることがわかったものの40名（内1名の調査出来ない理由は“その様な人はいない”、残りの39名は調査員も移転と報告している。）には調査表は送らなかつた。又八がキには受取人が宛先の住所にいない時は転送することなく返送してもらいたいことを書き又郵便局へもたのんでおいたのであるが、実際には相当転送されたものもある様であった。

この表の示す様に、移転の11%，“その様な人はいない”の39%に上る人から返事が来てゐるし、又出張の22%、不在の12%に上る人は郵便局では宛名人不明となっている。これにはもちろん郵便局の手違いも相当あると思はれるが、調査員が調査出来ない理由として挙げたものも相当実際と違ひがあることを示してゐる。だから、調査員が“その様な人はいませんでした”こいて帰つて来た時も、もう少ししらべれば本当はいる人が相当あるはずだから、調査員の *supervise* といふことが重要になってくるわけである。

しかし、もし調査出来るいものも、調査出来たものと同じ様な人達で、同じ様な投票をするといふのであれば、調査出来ないものをへらすために、それ程気をつかふ必要はないわけであ

る。その様子を調べるために調査出来なかった人に葉書を職業・学歴等をたずねてみたのである。

§3.2 東京都内を郵便で調査した時、一日にどの位づつ返事が来、何日位で来なくなるかについて。

われわれは往復ハガキで調査を行ったのであるが、この返事の来方より、毎日何通来るかをみることにした。

最初4月26日(火)に314通発送したが4日目の29日(金)から返事が来始めて、一週間後には大体来なくなる。この時には63通つまり発送した数の20.5%の回答と、80通、つまり発送したものの25.4%の“宛名人不明に付送達”があった。

次に第一回の返事がもう来なくなったと思うけられた時、まだ返事をくれない人に、第二回目の調査票を発送した。この時も発送の4日目から返事が来はじめ、一週間でおさまった。この時は第一回目に返事をくれた人と、“宛名人不明に付送達”された人をのぞいた171人に発送したわけであるが、その中の47人つまり27.4%の回答と、又おかしなことに19人(12.1%)の“宛名人不明に付送達”があった。これは宛名人が移転してゐた時は、荷返ってもらう様にたのんでおいたのが、最初の方はまもられず、転地先へ回送されたが、第二回目では回送されることなく持帰ってくれたのか。それとも他の手違いで送らなかつたものかわからない。

これまでもまだ返事をくれないし、又送達にもなつて来ない人がまだ105人あった。この人たちにも、もう大分おそくなったが第3回を7月に発送した。この時も返事の来ないじめたのは、4日目で、大体おさまったのは一週間であつた。この時には26通(24.8%)の回答と、又6通(5.7%)の宛名人不明に付送達といふのが出て来た。

とれる3回の結果によれば、返事は大体発送した日から4日目位から来はじめて、一週間位たつと来なくなり。大体発送し

たものの20%ないしは25%近くの返事が来る。

又二回目からは来るはずのない“宛名人不明につき返送”といふのが、二回三回もあるといふことに注意しなければならない。郵便局も又間違ふものであるといふことを、郵便で調査をするときには知っておかねばなるまい。

結局この返事の来た分を、返送になったものをのぞいて、つまり返事がくるはずのものから何通来たかといふパーセンテージを計算したのが第3.7図の曲線である。

§3.3 ハガキの返事をくれたのはどんな人であるか、面接出来た人とばかりがってゐるかについて。

ハガキによる調査は都合3回行なつたわけであるがこの時返送になつて来たのが103通、返事をくれたのが140通あったがその中の8通は宛名人が移転したとか死んだとか、いふことをしらせて来たものであった。そこで一回目に返事をくれた人と二回目、三回目に返事をくれた人の間で男女とか、年齢等についてくらべてみた。これはつまり、年の若いものが早く返事を出すとが、学丁の低いものはなかなか返事を出さないとかいうことがあるだらうかをみるためであつた。これを表にしてみると

第3.8 表

	男	女	計
第 I 回	37	24	61
第 II 回	32	14	46
第 III 回	17	8	25
計	86	46	132

第 3. 9 表

年 令	~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65以上	計
第 I 回	10	8	7	7	4	6	6	3	2	8	61
第 II 回	5	9	2	4	9	6	4	2	2	3	46
第 III 回	2	4	4	1	5	1	4	2	2		25
計	17	21	13	12	18	13	14	7	6	11	132

第 3. 10 表

学 校	不就	小学	中学	高専	大学	その他	不明	計
第 I 回	1	20	20	10	8		2	61
第 II 回	1	20	8	7	8	1	1	46
第 III 回	1	11	6	3	3		1	25
計	3	51	34	20	19	1	4	132

第 3. 11 表

職 業	商店	経営者	知的労働者	工員	筋肉労働者	車員	接客業	無職	主婦	学生	計
第 I 回	2		7	2	6	18	2	16	1	7	61
第 II 回	2	1	7	3	7	12	1	12	1		46
第 III 回				1	4	13		6		1	25
計	4	1	14	6	17	43	3	34	2	8	132

上の表で χ^2 を用いて I 回目, II 回目, III 回目の間に差があるかどうかを検定してみるといずれの場合も有意な差はなかった。つまり気が若いものが早く返事を出すとか, 学歴の高いものがなかなか返事を出さないとか又職業によって返事の出し方がち

がうとかいふことはないといふことがわかった。

以上のことから、ハガキで調査した時、早く返事をくれる人も、返事がおそくなる人も学歴、職業等にちがいはないといふことがわかったのだから、こんどは、訪問調査出来た人とくらべてみて様子がちがうかどうかをしらべてみる。この返事をくれた人が、調査出来なかった人のランダムサンプルになっておるかどうかということば問題となる点であるが、ここでは60%の回答を得たのであるから一応ランダムなサンプルであるとして考えてゆく。そこでこの二つを比べて例へば職業については差があるということになれば、或調査員がその人の家へ行った時、或職業の人は大抵会えるとか、会えないとかいうことが出来ると結論するわけである。

これ等を又 χ^2 を用いて検定してみると、年令では有意な差はなく、男女、学歴、職業では有意な差があった。この χ^2 の結果と上のグラフをみれば訪問した時に家にいるかいないかは、年令には関係しない。男は家にいなくて女が家にいる。学歴については、学歴が低い方が家にいて、高い方は家にいないことが多い。職業については、商店の主人、工場等を経営してゐる人とか主婦、接客業をやっている人がよく家にいて、事務員とか先生、土工等の家の外で働く人は家にいないことが多いといふきはめてあたりまえなことがよく出ている。

上の様に訪問調査出来る人と、出来ない人とでは、学歴、職業に大きな差があるのであるから、調査出来ないものを軽く考へてはならないのであって、調査出来ないものを出来るだけ少くすることが非常に大切になるのである。

なお、面接調査と郵便調査の比較を、性、年令、学歴、職業別にしたものを、図で示す。

この年令、学歴、職業について面接出来たものと郵便で調査して返事をくれたものの間を χ^2 でくらべてみると、年令では有意な差はなく、学歴、職業では有意な差があった。

§ 3.4 郵便による調査に返事を出すことと投票したとかなかったことがどの様に関係してくるか。

返事をくれた人の投票したか、棄権したかを、1回目、2回目、3回目についてしらべてみると、

第 3.16 表

	投票した	棄権した
I	39	18
II	15	28
III	5	20
計	59	66

但し足して132にならないのは不明があるから

これを見てみれば、1回目、2回目、3回目で差がある。つまり、投票した人の方が早く出し、棄権した人は、さいそくされてからやっと出すことがわかる。ここでハガキで調査出来たものが、返事のこない人と加えたもの、つまり、ハガキの調査の対象となっている人からのランダムなサンプルになっているかどうかを見てみると、

第 3.17 表

	投票した	しなかった
返事をくれた人	59	66
全対象	81	116

これは大体ランダムなサンプルと見てよい。

上のことからわかることは、投票しなかった人は、さいそくしてやらなければならぬが返事をよこさないし、調査対象のランダムなサンプルを得ようと思うならば、何度もさいそくしてやらなければならぬということである。

第4章 サンプルのうそつき率について

投票したかどうかを、あとになってきいたとき、実際の投票とくいちがってくることに付いて。

投票日のあと2日目から3~4日かかってオ2回目の調査を行い、投票したかどうかをきいてみた。これがほんとであるかどうかを、もっと客観的な資料にもとづいてしらべてみると、これによる結果と相当くいちがっていることがわかった。というのは選挙前の調査で面接調査出来た670人を、選挙人名簿とてらしあわせて、実際に投票したか、棄権したかをしらべてみれば、

第4.1表

	回 答	実 際	人 数	%	%
ほと	投票した	投票	349	52.2	83.0
	棄権した	棄権	206	30.8	
う	棄権した	投票	27	4.0	13.7
	投票した	棄権	65	9.7	
不明、調査不能			23	3.3	2.3
合 計			670	100.0	100.0

となっている。つまり投票しなかったのに投票したと答えたものが約10%、投票したのに、投票しなかったと答えたものが4%ある。

そこでオ1回の調査で衆議院の選挙に投票したかどうかをきいてあるものを前と同じ様にしらべてみると、

学庁によるうそつき率

第4.7 表

		学庁なし	小学校	中学校	高専	大学	その他	計
長選挙	うそ	1	47	31	5	4	4	92
	ほんと	12	260	189	47	34	13	555
	不明	1	7	10	1	3	10	23
	計	14	314	230	53	41	18	670
	うそつき率	$\frac{1}{14}$	$\frac{47}{314}$	$\frac{31}{230}$	$\frac{5}{53}$	$\frac{4}{41}$	$\frac{4}{18}$	$\frac{92}{670}$
衆院選挙	うそ	2	47	30	6	8	1	94
	ほんと	12	262	196	47	33	17	567
	不明	0	5	4			0	9
	計	14	314	230	53	41	18	670
	うそつき率	$\frac{2}{14}$	$\frac{47}{314}$	$\frac{30}{230}$	$\frac{6}{53}$	$\frac{8}{41}$	$\frac{1}{18}$	$\frac{94}{670}$
両選挙を通じて	少くとも一方うそ	2	92	51	10	11	5	161
	両ほんと	11	224	169	42	27	12	485
	不明	1	8	10	1	3	1	24
	計	14	314	230	53	41	18	670
	うそつき率	$\frac{2}{14}$	$\frac{82}{314}$	$\frac{51}{230}$	$\frac{10}{53}$	$\frac{11}{41}$	$\frac{5}{18}$	$\frac{161}{670}$

これを χ^2 検定しても、とくにどの学庁のものがうそをつくとか、つかないというようなことはいえない。

つまり、男が女よりよけいうそをつくこともなければ、学丁の低いものがよけいにうそをつくこともない。男女、学丁、職業、年齢の如何を問わず一様に、うそをついて、大体この様な選挙の投票というものでは10%のうそは入ってくるとゆうことになる。

§4.2 家によくいるか、るすしがちかによるうそのつきぐあい。

これもあるいみで、前と同じく社会的状態であろうが、少し性質がちがうので、別にここでとりあげる。また不在のため留置にしたものは、サンプル自身に記入してもらったので、これも別に(§4.4で)扱うことにする。

さて家によくいるか、るすがちかを見るのに、サンプルがつかまるまで、何回訪問したか、その回数によることにした。

但しこの分析では、うそつき率というのはうそかほんとかが不明のものをのぞいたものに対するもの、すなわち、

$$\text{うそつき率} = \frac{\text{うそ}}{\text{ほんと} + \text{うそ}} \quad \text{である。}$$

第4.8表

訪問回数		1回	2回	3回以上	不明	計
区 長 選 挙	うそ	57	21	8	6	92
	ほんと	349	125	39	20	553
	計	406	146	47	26	645
	うそつき率	14.04	14.38	17.02	13.04	58.48

衆 院 選 挙	うそ	55	20	11	8	94
	ほんと	360	132	36	39	567
	計	415	152	47	47	661
	うそつき率	13.25	13.15	23.42	17.02	66.84
西 選 挙 を 通 じ て	少くとも 一方うそ	98	36	15	12	161
	両方 ほんと	309	110	32	34	485
	計	407	146	47	46	646
	うそつき率	24.07	24.66	31.90	26.08	106.71

このどれについても、 χ^2 検定によればうそとほんとの間に差がみつけれない。つまり、よく外出する様を社会的条件の人、よく家にいる様な状態にある人も、どちらが多くうそをつくとうそをうそとゆうことはないのである。

§4.3 政治的関心によるうそのつきぐあい。

今までしらべたところで、社会的な状態の違いによつては、うそをつくようすが違われないことが分かった。ここでは見方を変えて、誰れに投票するか、支持政党、政治に対する意識、能力による違が、うそつき率に差をひきおこさないかどうかをしらべてみる。但しうそというのは今までと同じく投票するか、しないかと実際の投票棄権のうそか、ほんとを、例えば誰れに投票するかという質問に対する答えで分類したもので、ほんとにその人に投票したかどうかではない。

誰れに投票するかによるうそつき率

第 4. 9 表

	矢田	難波	石橋	佐藤	千代田	2人以上 あげたもの	わからぬ	拒否 その他	計
うそ	21	9	7	2		6	108	8	161
ほんと	97	28	11	5	5	10	317	12	485
不明	3	3				2	15	1	24
計	121	40	18	7	5	18	440	21	670
うそつき率	17.4	22.6	38.9	28.6	0.0	33.4	24.6	38.7	24.0

これによって、 χ^2 検定をしてみると、誰れに投票するというものによって、とくにうそをつくとかつかないということになり。

支持政党による うそつき率

第 4. 10 表

	民自	民主	社会	共産	保守	左派	その他	なし	計
うそ	50	7	16	9	2	1	3	73	161
ほんと	166	24	38	32	10	2	2	211	485
不明	8	0	2	4	1	0	0	9	24
計	224	31	56	45	13	3	5	293	670
うそつき率	22.4	22.6	28.6	20.0	15.4	33.3	60.0	25.0	24.0

これも χ^2 検定によれば、支持政党によってうそのつき方に違いがあるとはいえない。

学庁によるうそつき率

第4.7表

		学庁なし	小學校	中學校	高専	大学	その他	計
区 長 選 挙	うそ	1	47	31	5	4	4	92
	ほんと	12	260	189	47	34	13	555
	不明	1	7	10	1	3	10	23
	計	14	314	230	53	41	18	670
	うそつき率	$\frac{1}{14}$	$\frac{47}{314}$	$\frac{31}{230}$	$\frac{5}{53}$	$\frac{4}{41}$	$\frac{4}{18}$	$\frac{92}{670}$
衆 院 選 挙	うそ	2	47	30	6	8	1	94
	ほんと	12	262	196	47	33	17	567
	不明	0	5	4			0	9
	計	14	314	230	53	41	18	670
	うそつき率	$\frac{2}{14}$	$\frac{47}{314}$	$\frac{30}{230}$	$\frac{6}{53}$	$\frac{8}{41}$	$\frac{1}{18}$	$\frac{94}{670}$
両 選 挙 を 通 じ て	少なくとも一方うそ	2	82	51	10	11	5	161
	両ほんと	11	224	169	42	27	12	485
	不明	1	8	10	1	3	1	24
	計	14	314	230	53	41	18	670
	うそつき率	$\frac{2}{14}$	$\frac{82}{314}$	$\frac{51}{230}$	$\frac{10}{53}$	$\frac{11}{41}$	$\frac{5}{18}$	$\frac{161}{670}$

これを χ^2 検定しても、とくにどの学庁のものがうそをつくとか、つかないというようなことはいえない。

つまり、男が女よりよけいうそをつくこともなければ、学丁の低いものがよけいにうそをつくこともない。男女、学丁、職業、年令の如何を問わねば、うそをついて、大体どのような選挙の投票というものでは10%のうそは入ってくるとゆうことになる。

§4.2 家によくいるか、ゐすがちかによるうそのつきぐあい。

これもあるいみで、前と同じく社会的状態であろうが、少し性質がちがうので、別にここでとりあげる。また不在のため留置にしたものは、サソフォル自身に記入してもらったので、これも別に(§4.4で)扱うことにする。

さて家によくいるか、ゐすがちかを見るのに、サソフォルがつかまるまで、何回訪問したか、その回数によることにした。

但しこの分析では、うそつき率というのほうそかほんとか不明のものをのぞいたものに対するもの、すなわち、

$$\text{うそつき率} = \frac{\text{うそ}}{\text{ほんと} + \text{うそ}} \quad \text{である。}$$

第4.8表

訪問回数		1回	2回	3回以上	不明	計
区 長 選 挙	うそ	57	21	8	6	92
	ほんと	349	125	39	40	553
	計	406	146	47	46	645
	うそつき率	14.04	14.38	17.02	13.04	58.48

衆 院 選 挙	うそ	55	20	11	8	94
	ほんと	360	132	36	39	567
	計	415	152	47	47	661
	うそつき率	13.25	13.15	23.42	17.02	66.84
西 選 挙 を 通 じ て	少くとも 一方うそ	98	36	15	12	161
	両方 ほんと	309	110	32	34	485
	計	407	146	47	46	646
	うそつき率	24.07	24.66	31.90	26.08	106.71

このどれについても、 χ^2 検定によればうそとほんとの間に差がみつけれない。つまり、よく外出する様な社会的条件の人、よく家にいる様な状態にある人も、どちらが多くうそをつくというわけではないのである。

§4.3 政治的関心によるうそのつきぐあい。

今までしらべたところで、社会的な状態の違いによつては、うそをつくようすが違わないことが分かった。ここでは見方を変えて、誰れに投票するか、支持政党、政治に対する意識、能力による違が、うそつき率に差をひきおこさないかどうかをしらべてみる。但しうそというのは今までと同じく投票するか、しないかと実際の投票棄権のうそか、ほんとを、例えば誰れに投票するかという質問に対する答えで分類したもので、ほんとにその人に投票したかどうかではない。

誰れに投票するかによるうそつき率

第 4. 9 表

	矢田	難波	石橋	佐藤	千代田	2人以上 おけあし	わかつた	拒否 その他	計
うそ	21	9	7	2		6	108	8	161
ほんと	97	28	11	5	5	10	317	12	485
不明	3	3				2	15	1	24
計	121	40	18	7	5	18	440	21	670
うそつき率	17.4	22.6	38.9	28.6	0.0	33.4	24.6	38.7	24.0

これによって、 χ^2 検定をしてみると、誰れに投票するというものによって、とくにうそをつくとかつかないということになり。

支持政党によるうそつき率

第 4. 10 表

	民自	民主	社会	共産	保守	左派	その他	なし	計
うそ	50	7	16	9	2	1	3	73	161
ほんと	166	24	38	32	10	2	2	211	485
不明	8	0	2	4	1	0	0	9	24
計	224	31	56	45	13	3	5	293	670
うそつき率	22.4	22.6	28.6	20.0	15.4	33.3	60.0	25.0	24.0

これも χ^2 検定によれば、支持政党によってうそつぎ方に違いがあるとはいえない。

投票に対する関心によるうそつき率

第4.11表

	必ず ゆく	大概 ゆく	まあ 行く	行く	わか らぬ	わか ぬ	まあ 行かぬ	大概 行かぬ	必ず 行かぬ	その他	計
うそ	52	24	29	38	9		2	3	4		161
ほんと	172	79	50	117	16	2	16	12	44	1	509
計	224	103	79	155	25	2	18	15	48	1	670
うそつき率	23.2	23.3	36.7	24.6	36.1	0	11.1	20.0	8.3	0	24.0

この場合も χ^2 検定によって、うそとほんとの間に差はみとめられない。

とんどは政治に対する意識或いは能力とでもいうものと、うその関係はどうだろうかこれを一応誰に投票するか自分で判断出来るかどうかに対する答によって分類してみる。この答そのものも信用出来ないかもしれないが、我々は相手の答え方だけしか知らないのであり、又これからなんでも判断しなければならぬのであるから、答え方で分類しておく。但しこのうそつき率も $\frac{\text{うそ}}{\text{ほんと} + \text{うそ}}$ である。

第4.12表

		判断できる	判断できない	わからない	拒否、其の他	計
区 長 選 挙	うそ	22	24	33	13	92
	ほんと	215	115	175	49	554
	計	237	139	208	62	646
	うそつき率	9.3	17.2	15.8	21.0	14.2

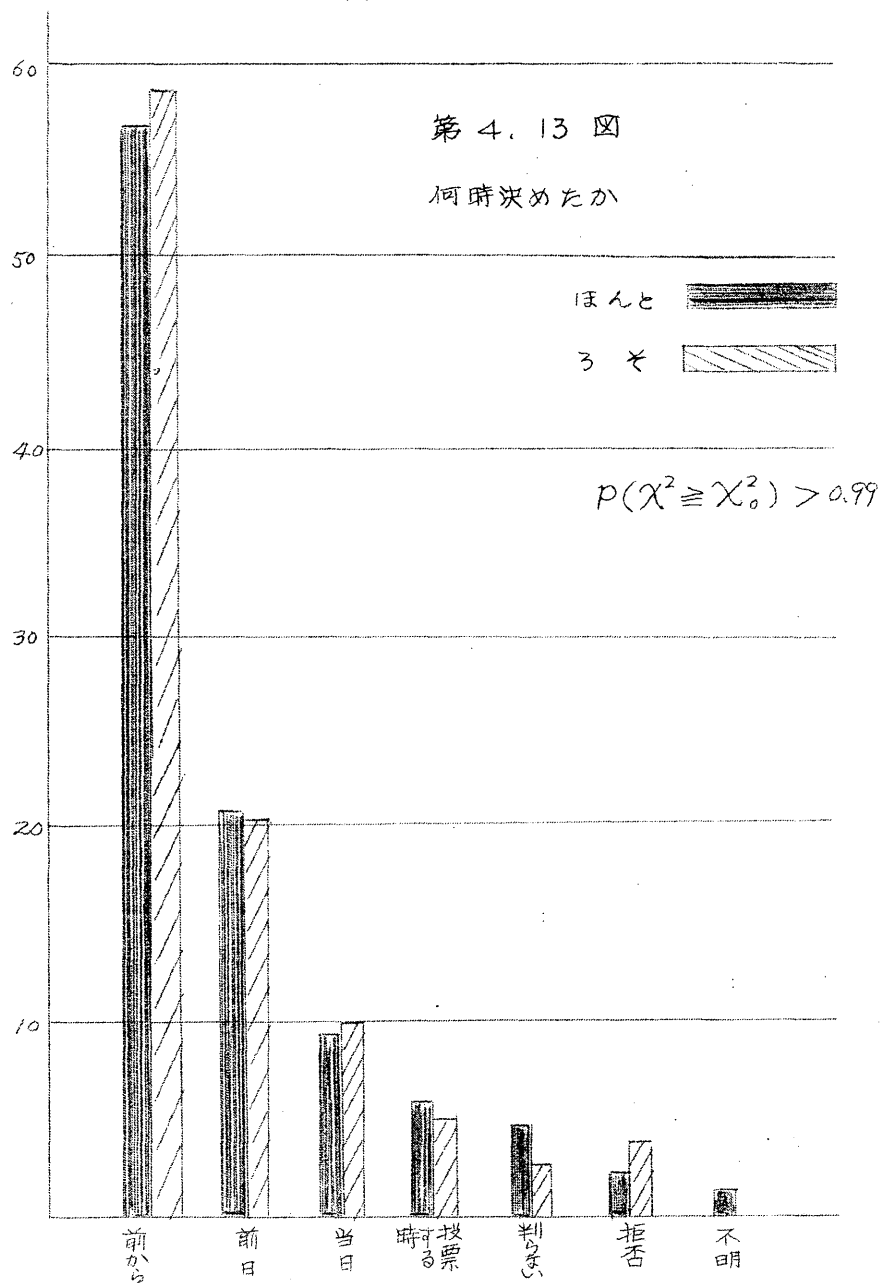
衆	うそ	42	13	30	9	94
院	ほんと	203	132	179	53	567
選	計	245	145	209	62	661
挙	うそつき率	17.1	9.0	14.4	14.5	14.2
両 選 挙 を 通 して	少くとも 一方うそ	54	32	55	20	161
	両方 ほんと	183	107	153	42	485
	計	237	139	208	62	646
	うそつき率	22.8	23.0	26.5	31.2	24.9

これを χ^2 -test を用いて Test してみると、危険率を5%に
おけば区長選挙に対するものだけは差があるといえる。つまり
判断出来ると答えたものは、他の答をしたものよりうそをつい
ていないのである。ところが危険率5%を覚悟しても、衆議院
の選挙の場合も、いがれか一方うそと両方ほんとの間にも差が
あるとわいえない。これは判断出来るとか出来ないとかいうこ
ととうその間には関係がないのであろうか。それとも判断出来
ると答えた人は、その選挙について、投票したかどうかのうそ
はつかないのであろうか。この問題については今後の研究をま
たねばならない。

いうきめたか、という問に対しては、前からきめていた、と
いう答が出やすいことについて。

投票する人をいうきめましたか、ということ。選挙のあとに
になって、きいたのであるが、その答はオ4.13 岡の様になっ
ていた。この“ほんとう”とは、投票したと答えたし、又実際
に投票している人のグループ。“うそ”とは投票したと答えた

が、実際には投票していない人のグループである。これを見るとこの2つのグループの間には差がないことがわかる。つまり



実際に投票した人もしなかった人も、あとで投票したと答えた時には、60%近くのもの前は前からきめていたというし、20%位の前日は前日、10%のものは当日きめたというのである。

ここで、前からきめていた、という人282人の選挙の調査表を見てみると、誰かに入れると、いっている人は235人、まだぬからぬといった人が、46人あるのである。又、前の日にきめたと答えたもの103人の中16人は実は、選挙前の調査の時すでに誰かに入れるということをはっきり答えているのである。この様にして、きめた日についての“ほんとう”と“うそ”をきめ、ほんとうに投票したものについてくらべたのが表4.14表である。又実際には投票しなかったけれど、選挙後の調査では、投票したと答えたものについて、くらべたのが表4.15表である。これをみると、ほんとうに投票したものでは、“うそ”と“ほんと”の間に差があるとはいえないが、投票についてうそをついたものの間では有意な差がある。つまり、実際に投票していないのに、投票したと答えた人は、当日きめたとか、前日きめたとか答えるより、よけいに前からきめていたと答える傾向が強いのである。

ここで衆議員選挙の投票について、うそをついたものが区長選挙の時にうそをついたかどうかをみる。

第4.16表

区長 \ 衆院	うそ	ほんと	計
うそ	32	81	113
ほんと	88	578	666
計	120	659	779

これで χ^2 -test を用いて独立性を検定してみると、これは否

される。つまり衆議院選挙について、うそをついたものは、区長選挙についてもうそをついたものが多いというのである。このことから大体うそをつきやすい性格とでもいう様なものがあるだろうということが考えられる。これがどんなものでとらえられるだろうか、性別、年齢、職業等ではとらえられないということは前にみてある。又調査員に対する質問の回答の様式からくるかもしれないが、これも前に見た通りである。

§4.4 留置調査のうそ

今までは面接調査した人について分析したのであるが、我々は調査の際、最初の訪問で不在であった人の半数には、質問用紙を置いて書きこんでもらった。この書いたもらったもの（留置）と、調査員が直接会って質問したものではうそ等についてはどうちがってくるだろうか。これを見るには書いてもらったのは衆議院の選挙についてであるから、衆議院選挙について、面接の結果と、書いてもらったもの（留置）とくらべてみる。

第4.17表

	回 答	実 際	留 置 (%)	面 接 (%)
ほ ん と	投票した	投票	95 (64.9)	379 (56.6)
	棄権した	棄 権	22 (14.1)	188 (28.1)
う	棄権した	投票	24 (15.4)	86 (12.2)
そ	投票した	棄 権	8 (5.1)	8 (12.8)
不 明			7 (4.5)	9 (1.3)
計			156 (100.0)	670 (100.0)

となっている。ここで不明はしらべられなかったものであるからのぞいておいて、 χ^2 -Test を用いて両者の構成をくらべてみ

ると、 $\chi^2 = 21.1535$ となり、これは危険率を 0.001 においても同じ構成をもっているということは否定される。両方をみると、本当に投票して、したといったものとしなくてしたといったものが面接よりも書いてもらった方が多く、しなくてしない。してしないは書き込んでもらった方が少くなっている。そこでこれを うそとほんとにまとめてみると、

第 4. 18 表

	留 置	面 接	計
ほ ん と	117	567	684
う そ	32	94	126
計	149	661	810

となっていて、これを χ^2 を用いて test してみると、危険率を 5% とすればちがいがあるといえる。そしてうそは面接よりも多くなっている。

この差がおこる原因として、ふたつの假説が考えられる。

1° 調査員に面と向って答える時より、調査員のいないとき、書いておく方が、うそをつきやすい。

2° 留置となったサンプル（不在がちの人）はうそをつきやすい。

われわれは第 2 の假説をつぎのようにしてしらべてみた。第 1 回目で留置となったサンプルが衆院選挙でついたうそのぐあいと、そのサンプルを含む 2 回目に市長選挙について面接でしらべたうそのぐあいをくらべてみる。

第4.19表

	回 答	実 際	留 置 (衆 院)	面 接 (区 長)
ほ ん と	投票した	投票	65	349
	棄権した	棄権	50	206
う そ	棄権した	投票	13	65
	投票した	棄権	7	27
不 明			21	23
計			135	647

これを χ^2 検定すれば、両方に差がない。すなわち χ^2 の段説はなりたたないので、 χ^2 の假説を一応とりあげてよいのではないだろうか。

なおこの書いてもらったものを面接のものと同じ様に男女、職業等について分析しても sample 数が少くうそは20人位のものであるから有意な差がある様には出てこない。

書き込んでもらった方にうそが多いということに関連して、うそではないが、もう一つ誰に入れてよいか判断出来るかどうかという問の答について面接調査と書き込みとをくらべてみる。

第4.20表

	判 断 で き る	判 断 で き な い	わ か ら な い	拒 否 そ の 他	計	
面 接	237	139	208	62	646	人 数
留 置 (記入)	77	34	27	13	151	
面 接	36.7	21.5	32.2	9.6	100.0	%
留 置 (記入)	51.0	22.5	17.9	8.6	100.0	

-79-

$\chi^2 = 15.0500$ これは危険率 1% で有意な差がある。つまり書いてもらったのには判らないという答が少く、判断出来るという答が増えているのである。これも面とむかっては判断出来るという答は出にくく書く時には相当楽に書けるからであろう。

第5章 調査の信頼性について

今までは、調査で回収した調査票を中心にしらべてきたのであるが、この調査結果が、正しく選挙を予想したが、———
reliable な調査であったか、もし開票結果と調査結果にく
いちがいがあれば、それはどうしておこったのか、また今後予
測するためには、そのくいちがいをどうすれば修正できるか、
というような問題がおこってくる。この率ではこれらのことを
しらべてみる。

投票率とゆうものが男女その他で差があるかどうかをみてみ
る。このためには前にうやについて用いたのと同じ様に投票し
たものと棄権したもののについて男女その他の構成をくらべてみ
る。投票したとかしないとか答えたものは前に見た様に信用出
来ないから我々の調査したもっと客観的な資料によるものを用
いて実際に近いものについて分析した。

第5.1表 (性別)

	男	女	計
投票した	231	226	457
棄権した	162	191	353
計	393	417	810
投票率	58.8	54.2	56.4

第 5. 2 表 (学 区 別)

	就学 しない	小学校	中学校	高 専	大 学	その他	計
投票した	6	208	164	40	30	9	457
棄権した	8	148	121	33	31	12	353
計	14	356	285	73	61	21	810
投票率	43.0	58.5	57.5	54.9	49.2	43.0	56.3

第 5. 3 表 (年 令 別)

	20~	25~	30~	35~	40~	45~	50~	55~	60~	65~	70~	計
投票 した	56	49	55	57	60	55	40	36	27	14	7	456
棄 権 した	25	70	46	54	36	26	28	13	20	11	21	350
計	81	119	101	111	96	81	68	49	47	25	28	806
投票 率	69.1	41.2	54.5	51.4	62.5	67.9	58.8	73.5	57.4	56.0	25.0	56.6

第 5. 4 表 (取 業 別)

	商店	経営者	工場 経営	知的 労働者	サービス 業	工 賃	筋 労働者	事務	官公	知的 サービス	接客	無取	主婦	学生	計
授 した	40	3	16	10	11	36	24	66	21	13	18	10	179	10	457
無 した	35	6	15	5	4	15	16	57	6	7	16	20	139	12	353
計	75	9	31	15	15	51	40	123	27	20	34	30	318	22	810
率	53.3	33.3	51.6	66.6	73.3	70.6	60.0	53.7	77.7	65.0	52.0	33.3	56.3	45.5	56.4

上にみた様に投票したものとしなないもので男女、学庁では構成に差がない、これは男と女も、学庁によっても投票率に差はないというのである。ところが年令ではたしかに差があるし。又職業でも5%程度の危険率をもって大体差があるといえる。年令では20~25才、45~50才、55~60才は投票が他より高く25~30才と70才以上では投票率は他より低い。職業では工員、労務提供的と公共的職業をもつ人の投票率が他より高く。事務的なもの、無職のものの投票率は他より低い。

こんどは政治意識とでもいうものと投票率の関係を見てみよう。このために選挙前に誰かに投票すると名前をあげたものと、まだきまっていなないものについてくらべてみる

第 5.5 表

	名をあげたもの	未 定
投 票	195	239
棄 権	90	254
計	285	493
投 票 率	68.4	48.4

χ^2 29.119 これは危険率 0.1%としても差があるといえる。やはり選挙前から誰に入れるかきめてある様な人の投票率は“まだきまっていなない” 様な人より高いのである。

支持政党でやってみると、

第 5. 6 表

	民 自	民主 <small>(民自と 民主を 含む)</small>	社 会	共産 <small>(社会と 共産を 含む)</small>	な し
投票した	164	31	48	34	177
棄権した	109	20	27	25	167
計	273	51	75	59	344
投票率	60.0	60.8	64.0	57.6	51.5

$\chi^2 = 7.1106$ で構成に差があるとはいえない。支持する政党によっては投票率はかわっていないのである。然しこれを支持する政党のあるなしにまとめても差はみとめられない。

$$\chi^2 = 2.6298$$

又これを誰に入れるか判断出来るかどうかについて調べてみる。これは面接したものと書いてもらったのではちがいがみとめられるから面接によって調査したものだけについて行った。

第 5. 7 表

	判断出来る	出来ない	わからない	その他
投票した	164	75	108	33
棄権した	73	64	100	29
計	237	139	208	62
投票率	69.2	54.0	51.9	53.2

$\chi^2 = 16.7822$ これには差がある。つまり判断出来ると答えているものは投票率高く、判断出来ないものとあからないものは投票率が低いのである。

選挙前に投票するとかしないとか答えたものが投票についての様になっているかみよう。

第 5. 8 表

	必ず行く	大抵行く	行く	まあ行く	わからない	まあ行かない	大抵行かない	必ず行かない	拒否その他
投票した	217	73	93	36	22	1	8	3	3
棄権した	79	63	63	53	40	17	13	23	2
計	296	140	156	89	62	18	21	26	5

行かないと答えたものにはただ行かないと答えたものはなく、まあ行かないとか何とか何か前につけて答えている。この行かない方は数が少ないのでまとめて行かないとして

第 5. 9 表

	必ず行く	大抵行く	行く	まあ行く	わからない	行かない
投票した	217	73	93	36	22	12
棄権した	79	63	63	53	40	53
計	296	140	156	89	62	65
投票率	73.3	52.1	40.5	35.4	5.6	18.5

くらべてみると、($\chi^2 = 205.172$) 明うかに差がある。この大抵行くと行くの間には有意な差はみとめられない ($\chi^2 = 1.044$)。大抵とつけてもただ行くといっても同程度の投票率

の関心をしめしているのである。又まあ行くとわからないの間にも有意な差はみとめられない (χ^2 0.3808) つまりまあ行くという様なあいまいな答えはわからないという答えと同程度のものである。この差のないものをまとめてみれば結局

第 5. 10 表

	必ず行く	行く	わからない	行かない
投票した	217	166	58	12
棄権した	79	126	93	53
計	296	292	151	65
投票率	73.3	56.8	38.4	18.4

となっていて。投票率は必ず行く、行く、わからないの順に少くなっている。

§ 5.2 投票率についての開票結果と比較

あなたは投票するつもりですか、という問いに対して、“必ず投票する”とか“大抵するつもりだ”とか大抵投票すると答えたものは 83.5%にも上るけれど、実際に投票したものは、われわれの調査出来たサンプルでは 55% ($\sigma=1.7\%$)であった。ところがあとで発表された全区の投票率は 45.8%であって、この間に有意な差がある。どうしてこの様な差が出来たかということを考えてみる。

われわれが最初にとって来たサ一次のサンプル 1873 人について、投票率をみると、46% ($\sigma=1.1\%$)となり、実際の発表された数とほとんどちがいが無い。又後でみる様に、調査出来なかったもののうち、移転その他投票出来ないもの

をのぞいたもの、つまりわれわれの調査しようとしたサンプルの中で、投票しようと思えば投票出来たもので、調査出来なかったもの 199 人について投票率をみると、43% ($\sigma=3.5\%$) となっている、これと全区の投票率との間に有意な差はない。

この調査出来なかったものは、女よりも男が多く、学歴では高専以上のものが多く、職業では、事務的なもの、土工、学生などが多い、年齢では差がない。調査出来たものと出来なかったものの間の差がみとめられる。男女、学歴、職業については、投票率について男女、学歴では有意な差はみとめられないし、職業についても辛うじて大体 5% 程度の危険率で差がみとめられる程度であるし、投票率で差のみとめられる年齢については、調査出来たものと出来ないものの間には差がないのであるから、調査出来たものの投票率が有意に高いのは調査出来るものの *population* の投票率が高いのではなくて、このサンプルの投票率が特に高いと考えられる。これは調査されたということがその人の選挙への関心をひき起し、投票率を高めたといへるのであろうか？

§ 5.3 得票数の予測

選挙前の調査は選挙の 2 日前に行われたのであるが。それでも誰に入れるつもりかという問に対して、判らない答えたものが 52.3% もあった。

この選挙前の調査の答と、選挙後の誰に入れたかに対する答の相関表をつくり比率で表わしたのが表 5.11, 表 5.12 図である。A で例えば矢田判らないの 52 の・と○一つは矢田に入れたと答えた人のうち 52% は選挙前にはわからないと答えているということを示すものである。これを見てみると、選挙後矢田に入れたと答えたもののグループも、灘波その他に入れたと答えたもののグループも、選挙前の調査でわからないと答えたものの比率は大体同じになっているのがわかる。このことか

ら、選挙前の調査の頃きまっていなかった様な人も、大体他の人の意見に比例して誰かに投票したと考えてよいであろう。

ところで選挙前の調査の時に誰かに入れるときめてある人の間で各候補者に対する比率をもとめ、選挙後の答えから求めた比率及び、実際の公表された得票数の比率とをくらべてみると

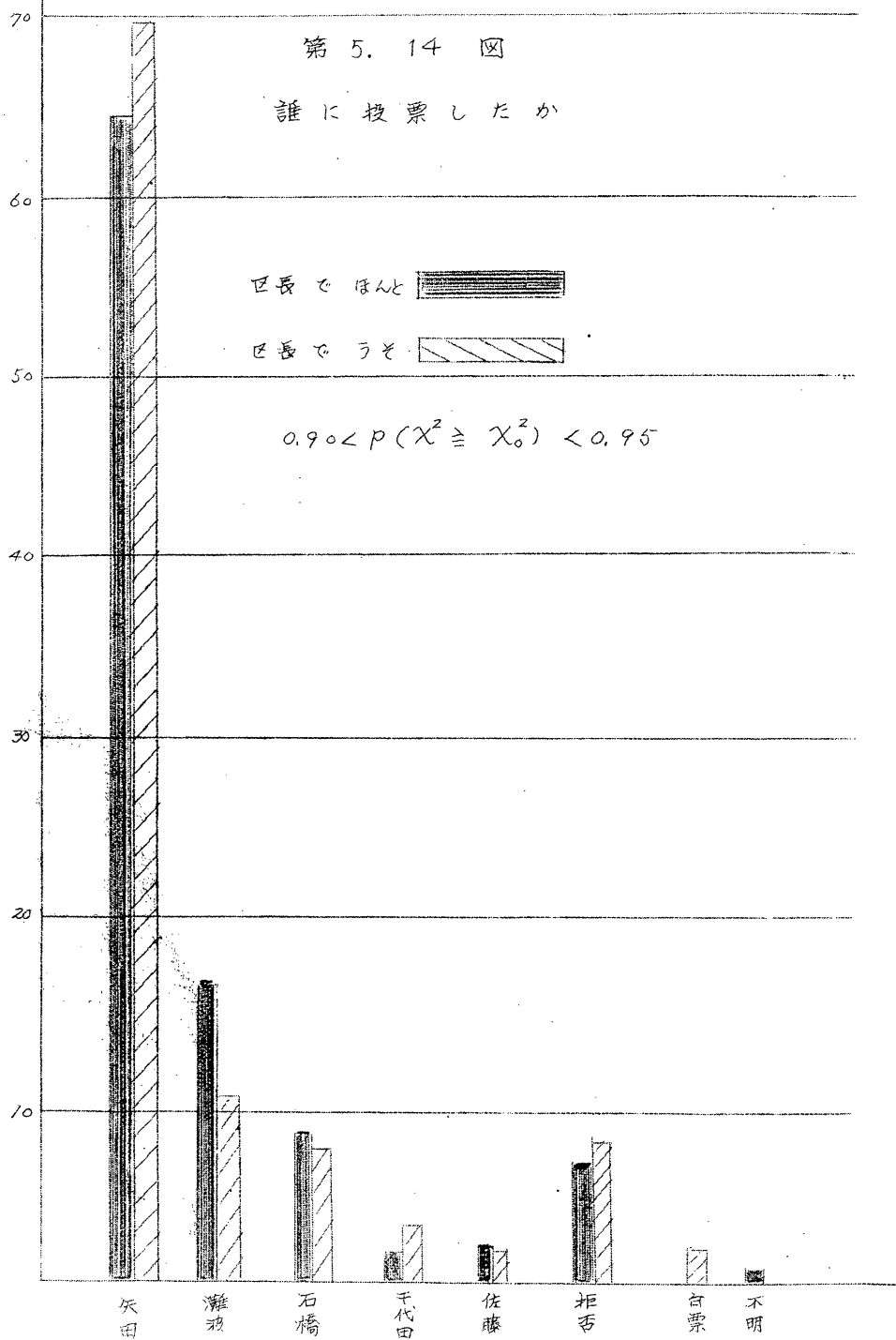
第 5.13 表

	矢 田	灘 波	石 橋	佐 藤	千代田
選 挙 前	62.1	20.6	8.7	4.7	4.0
選 挙 後	70.5	16.5	9.3	1.7	2.0
実 際	61.5	21.3	12.5	2.8	1.9

となっていて、これを χ^2 -検定を用いて検定してみれば、選挙前と選挙後の調査の結果には差があるし、実際の結果とでは選挙前の調査の結果は差がなく、選挙後の調査の結果とでは差があることがわかる。つまり選挙後には矢田に投票したと答えた人が多くなっているのである。これは矢田が当選したために、他の人に投票した人も矢田に入れたと答えるためではなかろうか。そこで誰かに入れたと答えた人でもほんとは投票していない人もあるから、これをほんとうとせにわけてみると図 5.14 の様になる。やはり矢田が多い様に見えるが、数が少いため統計的には差がない。そこで矢田が当選したために、他の人に投票した人のうち $\alpha\%$ が矢田に入れたと答えたと考えて、 α をもとめてみると、 $\alpha=0.222$ となる。つまりほんとは灘波に入れた人の中にも、佐藤に入れた人の中にも矢田に入れたと答えた人が 22.2%位いるといえると考えられるのである。この数から、ほんとうに灘波とか佐藤とかに入れた人数の推定値を

第 5. 14 図

誰に投票したか



出してみると

第 5. 15 表

矢 田	灘 渡	石 橋	佐 藤	千代田
285.6	97.4	55.1	10.2	11.5
62.1	21.2	12.0	2.2	2.5

となり実際の結果とよくあっている。

あ と が き

此の様に我々の狙った予想法は、この返答が *im Kleinen* なものであり、独走的な候補者ではあり、選挙運動も活発でなかった。

その為、この様な *simple* な場合の予想法について根拠を得ることはできたが、一般的な場合の予想法の研究には、あまり能率のよいものではなかった。よって、此の報告も、選挙の調査の際注意しなければならぬ。側面の問題点を表面に押し出すことの方に、力を注いである。此の意味で予想法としては常識的な程度の結果しか与へなかつたが、一言でいへば解答の不確かさを中心とする問題の所在に目を向けさせた意味を以て之を公表するものである。

尚我々は分析に當つて、多くの今迄に既に設定された *Hypothesen* 又抽象できる *Hypothesen* を改めては記さなかつた。之は、報告者の分量を節減せんとする趣旨からであり、又それは、各人がその立場に立って、之をみれば、その *Hypothesen* に対する解答から殆不必要とも考へたからである。

この報告は水野坦、木村等、西平重喜が相談して、内容や受持をきめた。まえがきと第1章調査概要、あとがきは水野によって書かれ、第2章～第5章は木村と西平が書いた。

なお附録は、水野所員が沖縄出張の後、西平が参考までにつけたした。

付 録 他 の 調 査 の う そ と の 比 較

世論調査をおこなった場合、大きな問題として、サンプルによる「うそつき」がある。このうそは、もちろんわざとつかれたものだけでなく、忘れたためなどの場合もふくまれる。われわれの調査の場合、投票についてのうそつき率を第4章でしらべてみた。

このような調査が他にもあるので、参考のため、ここにあげて、われわれの場合と比較してみる。

京都での調査は永木世論研究所月報5巻8号によるものであり、アメリカの調査は *Public Opinion Quarterly*, Spring, 1950. の *Validity of Responses to Survey Questions* (by Parry and Crossley) による。

さて京都市右京区で1949年1月におこなわれた総選挙について、1949年2月13日と2月20日に調査したものであるが、うそつき率を、

$$\text{うそつき率} = \frac{(\text{右京区の棄権率}) - (\text{サンプルの棄権率})}{(\text{右京区の棄権率})}$$

としているが、これではわれわれが第4章で考えたものとはちがって、サンプルの調査全体の誤差も入ってしまい、サンプルのうそつき率というよりは、調査のゆがみというべきものであろう。なおサンプル数が書かれていないので、はっきりしたことは分からない。

ちなみに、上のうそつき率によれば、つぎのようになっている。但し2月13日は調査員が記入し、2月20日はサンプル自身に記入させたものである。

第 付・ 1 表

性	記 入 者	調査員 (13 日)	サンプル (20 日)
男		59.0	40.3
女		53.8	27.2
計		54.6	33.4

また 1950 年 5 月 26 日に 1947 年の市長選挙と、1950 年 4 月 20 日の知事選挙についても、同じような方法——すなわち、うそつき率というよりは、調査のゆがみ——では

第 付・ 2 表

		得 票 率	調 査 結 果	うそつき率
知 事	蜷 川	57.1	65.5	
	井 上	42.9	34.5	19.6
市 長	神 戸	49.4	77.2	
	竹 内	47.2	19.1	59.5
	山 口	3.4	3.7	

これらの数字は § 4.1 や § 5.3 と余りにくいちがっている。

P. O. Q. の論文に報告されている調査は、Colorado 州の Denver 市でおこなわれたもので、選挙についてだけでなく、Community cheat, 図書館の利用、電話の有る無しなど

について、サンプルの回答と登録名簿とを照らし合わせたものである。

ここでは、投票に関するものだけ、それぞれの調査と比べてみる。

なお、サンプルは、City Directory から等間隔に1349人抽出された。調査は45人の調査員によって、面接調査で行われた。この結果920人(68.5%)の回答を得ている。

これによれば、1948大統領選挙と、それぞれの調査のうそつき率とはよく一致している。他の選挙は時間的なへだたりから、一致しないのではあるまいか。

さらに、1948の大統領と、それぞれの調査では、“ほとんど”の項目では有意な差がみとめられるものもあるが、国の違い、選挙の性質の違いを考えると、ほとんど一致していると云えるのではないだろうか。

また、p. O. Q. を主張するように、「うそ」の中では、投票しないのに投票したというもの (exaggerated) の方が、投票したのに投票しないというもの (under-reported) の方が多い。

Untersuchung der Berechtigten Meinung in der Wahl des Minato Stadtviertelme- istess

Der zweck unseres Forschung liegt in die Schätzung der Kandidaten Stimmenzahl, die Vorausagen des erwählten Kandidaten und die Methode zu suchen durch eine Verteilung des Berechtigten Charaktere. Im diesem Falle ist die Untersuchung einheit der einzelne in Minato Stadtviertel gewollte Wahlberechtigte, Die Stichproben sind vor der Wahlberechtigtenliste systematisch mit dem Intervalle der Vielfache der Anzahl der Listenlinie ist. Vor der Leistung der Wahl sind es jedem Stichprobe mit dem Interviewverfahren gesucht worden, die sind seine Kenntnis dieser Wahl, seine Willen zu wählen, sein Geschlecht, sein Alter, sein Geschäft, seine Abstimmung für die letzten Wahl und der Kandidat vom ihm zu erwählen nachdem dieser Wahl geleistet hat, ist auch gesucht worden, ob er seine Pflicht getan hat. Seiner Antwort der Abstimmung einstimmt

manchmal nicht was wir von der Liste fand. Von dieser Unvereinbarkeit analysierten wir und erfanden daß Lügen nicht von Geschlecht und Alter abhängt, aber wer vor der Wahl gelügt hat, der geneigt zu lügen nach derselben ist. Wir erwähnte also daß derartiges Problem auch in U.S.A. gesucht worden war.

Etwa halbe Stichproben sagten und dem Namen der Kandidaten, den sie abstimmen wollten. Die vor der Wahl gesuchte Kandidaten Stimmenzahl übereinstimmt mit der veröffentlichte Stimmenzahl, aber mit derselben übereinstimmt die nach der Wahl gesuchte Kandidaten Stimmenzahl nicht. Dies zeigt vielleicht daß man geneigt den Namen des erwähnten Kandidaten zu sagen ist, nachdem erwählten Kandidaten veröffentlicht wurde.

This is the forth issue of a projected series of reports entitled "The Research Report of the I. S. M."

"The Research Report of the I. S. M." publishes the reports of researches done in the application of Statistical Mathematics such as initial preparations, study designs, practical procedures and handling of data.

The series aims to be beneficial not only for the theoretical workers, but for research workers who are engaged in the practical problems of surveying, analysis and so on.

Editor	Hiroshi Midzuno
Published by	The Institute of Statistical Mathematics 10, Sangenjaya-cho, Setagaya-ku, Tokyo
Printed by	Sobunsha Co. 13, Takata-toyokawa-cho, Bunkyo-ku, Tokyo

The Research Report of the I.S.M.

Number 4

Polling Prediction

I

March 1951

The Institute of Statistical Mathematics

10, Sangenjaya-cho, Setagaya-ku, Tokyo